

太宰府・国分地区遺跡群 3

—松倉遺跡第1次・川添遺跡第2次・国分千足町遺跡第6次調査—

平成26(2014)年

太宰府市教育委員会

頁	誤	正																																																																																																																																																						
12	1SX014	1SX012																																																																																																																																																						
13	1SX014出土遺物(Fig. 7)	1SX012出土遺物(Fig. 7)																																																																																																																																																						
	<p>表1 松倉遺跡第1次調査 遺構一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>S-番号</th> <th>遺構番号</th> <th>種別</th> <th>時期</th> <th>地区番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1SD001</td><td>溝</td><td>奈良時代</td><td>B2</td></tr> <tr><td>2</td><td>1SK002</td><td>土坑</td><td>奈良時代</td><td>C3</td></tr> <tr><td>3</td><td>1SD003</td><td>田阿川</td><td>奈良時代</td><td>C4</td></tr> <tr><td>4</td><td>1SX004</td><td>掘まり状</td><td>8世紀～</td><td>B3</td></tr> <tr><td>5</td><td>1SA005</td><td>溝</td><td>奈良時代</td><td>Bライン</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>pit</td><td></td><td>A2</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>pit</td><td></td><td>B3</td></tr> <tr><td>8</td><td>1SX008</td><td>掘まり状</td><td>8世紀～</td><td>C4</td></tr> <tr><td>9</td><td>1SA010a</td><td>pit</td><td>奈良時代</td><td>B3</td></tr> <tr><td>10</td><td>1SA010</td><td>溝</td><td>奈良時代</td><td>B3</td></tr> <tr><td>11</td><td>1SA010a</td><td>pit</td><td>奈良時代</td><td>B4</td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>pit</td><td>8世紀～</td><td>B3</td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>pit</td><td></td><td>B3</td></tr> <tr><td>14</td><td>1SX014</td><td>pit</td><td></td><td>B3</td></tr> </tbody> </table>	S-番号	遺構番号	種別	時期	地区番号	1	1SD001	溝	奈良時代	B2	2	1SK002	土坑	奈良時代	C3	3	1SD003	田阿川	奈良時代	C4	4	1SX004	掘まり状	8世紀～	B3	5	1SA005	溝	奈良時代	Bライン	6		pit		A2	7		pit		B3	8	1SX008	掘まり状	8世紀～	C4	9	1SA010a	pit	奈良時代	B3	10	1SA010	溝	奈良時代	B3	11	1SA010a	pit	奈良時代	B4	12		pit	8世紀～	B3	13		pit		B3	14	1SX014	pit		B3	<p>表1 松倉遺跡第1次調査 遺構一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>S-番号</th> <th>遺構番号</th> <th>種別</th> <th>時期</th> <th>地区番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1SD001</td><td>溝</td><td>奈良時代</td><td>B2</td></tr> <tr><td>2</td><td>1SK002</td><td>土坑</td><td>奈良時代</td><td>C3</td></tr> <tr><td>3</td><td>1SD003</td><td>田阿川</td><td>奈良時代</td><td>C4</td></tr> <tr><td>4</td><td>1SX004</td><td>掘まり状</td><td>8世紀～</td><td>B3</td></tr> <tr><td>5</td><td>1SA005</td><td>溝</td><td>奈良時代</td><td>Bライン</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>pit</td><td></td><td>A2</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>pit</td><td></td><td>B3</td></tr> <tr><td>8</td><td>1SX008</td><td>掘まり状</td><td>8世紀～</td><td>C4</td></tr> <tr><td>9</td><td>1SA010b</td><td>pit</td><td></td><td>B3</td></tr> <tr><td>10</td><td>1SA010</td><td>溝</td><td>奈良時代</td><td>B3</td></tr> <tr><td>11</td><td>1SA010a</td><td>pit</td><td></td><td>B4</td></tr> <tr><td>12</td><td>1SX012</td><td>pit</td><td>8世紀～</td><td>B3</td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>pit</td><td></td><td>B3</td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>pit</td><td></td><td>B3</td></tr> </tbody> </table>	S-番号	遺構番号	種別	時期	地区番号	1	1SD001	溝	奈良時代	B2	2	1SK002	土坑	奈良時代	C3	3	1SD003	田阿川	奈良時代	C4	4	1SX004	掘まり状	8世紀～	B3	5	1SA005	溝	奈良時代	Bライン	6		pit		A2	7		pit		B3	8	1SX008	掘まり状	8世紀～	C4	9	1SA010b	pit		B3	10	1SA010	溝	奈良時代	B3	11	1SA010a	pit		B4	12	1SX012	pit	8世紀～	B3	13		pit		B3	14		pit		B3
S-番号	遺構番号	種別	時期	地区番号																																																																																																																																																				
1	1SD001	溝	奈良時代	B2																																																																																																																																																				
2	1SK002	土坑	奈良時代	C3																																																																																																																																																				
3	1SD003	田阿川	奈良時代	C4																																																																																																																																																				
4	1SX004	掘まり状	8世紀～	B3																																																																																																																																																				
5	1SA005	溝	奈良時代	Bライン																																																																																																																																																				
6		pit		A2																																																																																																																																																				
7		pit		B3																																																																																																																																																				
8	1SX008	掘まり状	8世紀～	C4																																																																																																																																																				
9	1SA010a	pit	奈良時代	B3																																																																																																																																																				
10	1SA010	溝	奈良時代	B3																																																																																																																																																				
11	1SA010a	pit	奈良時代	B4																																																																																																																																																				
12		pit	8世紀～	B3																																																																																																																																																				
13		pit		B3																																																																																																																																																				
14	1SX014	pit		B3																																																																																																																																																				
S-番号	遺構番号	種別	時期	地区番号																																																																																																																																																				
1	1SD001	溝	奈良時代	B2																																																																																																																																																				
2	1SK002	土坑	奈良時代	C3																																																																																																																																																				
3	1SD003	田阿川	奈良時代	C4																																																																																																																																																				
4	1SX004	掘まり状	8世紀～	B3																																																																																																																																																				
5	1SA005	溝	奈良時代	Bライン																																																																																																																																																				
6		pit		A2																																																																																																																																																				
7		pit		B3																																																																																																																																																				
8	1SX008	掘まり状	8世紀～	C4																																																																																																																																																				
9	1SA010b	pit		B3																																																																																																																																																				
10	1SA010	溝	奈良時代	B3																																																																																																																																																				
11	1SA010a	pit		B4																																																																																																																																																				
12	1SX012	pit	8世紀～	B3																																																																																																																																																				
13		pit		B3																																																																																																																																																				
14		pit		B3																																																																																																																																																				
14	<p>Fig. 8 松倉遺跡第1次調査遺構略側図 (1/200)</p>	<p>Fig. 8 松倉遺跡第1次調査遺構略側図 (1/200)</p>																																																																																																																																																						

序

太宰府・国分地区遺跡群 3

—松倉遺跡第1次・川添遺跡第2次・国分千足町遺跡第6次調査—

平成26(2014)年

太宰府市教育委員会

序

本書は、太宰府市国分・坂本で行われた発掘調査の報告書です。

調査地は太宰府市の北西のなだらかな扇状地に位置し、筑前国分寺跡や国分尼寺跡が所在します。近隣には戸籍・計帳に関する木簡が出土したことで知られる国分松本遺跡などもあります。

今回の調査では、平安時代の鋳造遺構や筑前国分寺と同時期と考えられる柵列や段落ちなども見つかかり、国分・坂本地区の土地変遷を知る上で貴重な成果を得ることができました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました、関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

太宰府市教育委員会
教育長 木村 甚治

例言

1. 本書は太宰府市国分・坂本で行われた松倉遺跡、川添遺跡、国分千足町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系（日本測地系）を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り G.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 調査対象地の表土除去および埋め戻しは(有)松田造園土木に委託した。
4. 遺構の実測及び写真撮影は山村、宮崎が行った。
5. 遺構の空中写真撮影は(有)空中写真企画（代表諫山広宣）が行った。
6. 出土した鉄製品の保存処理は(株)タクトが行った。
7. 遺物の実測は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
8. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美、吉村有紀が行った。
9. 遺物の整理接合・復元作業は馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。
10. 遺物の写真撮影は(有)文化財写真工房（代表 岡紀久夫）、山村が行った。
11. 図の浄書は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
12. 本書に用いた分類は以下のとおり。
 - 須恵器……『宮ノ本遺跡Ⅱ 一窯跡篇一』（太宰府市の文化財第10集）1992
 - 陶磁器……『大宰府条坊跡Ⅳ 一陶磁器分類一』（太宰府市の文化財 第49集）2000
 - 土器……『大宰府条坊跡Ⅱ』（太宰府市の文化財第7集）1983
13. 執筆は、松倉遺跡第1次調査と国分千足町遺跡第6次調査を山村、川添遺跡第2次調査を宮崎が行い、編集は宮崎が担当した。

目次

I、遺跡の位置と歴史	1
II、調査体制	4
III、調査および整理方法	5
IV、調査報告	
1、松倉遺跡第1次調査	6
(1) 調査に至る経過	6
(2) 基本層位	6
(3) 検出遺構	6
(4) 出土遺物	8
(5) 小結	13
2、川添遺跡第2次調査	15
(1) 調査に至る経過	15
(2) 基本層位	15
(3) 検出遺構	16
(4) 出土遺物	16
(5) 小結	22
3、国分千足町遺跡第6次調査	25
(1) 調査に至る経過	25
(2) 基本層位	25
(3) 検出遺構	25
(4) 出土遺物	28
(5) 小結	38
V、調査まとめ	41
写真図版	遺構および遺物写真

I、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に脊振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。二つの平野に挟まれたこの狭い平野に古代には大宰府政庁が置かれ、政庁の博多側には水城の土塁が築造されたほか、大野城・基肆城・阿志岐城などの古代山城が周囲の山々に築造されるなど、いわゆる羅城を形成していたと考えられる。

古代にはこの狭い平野の北端に大宰府政庁を置き、前面にいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北 22 条、東西各 12 坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。条坊の外側西部では、カヤノ遺跡で、7 世紀末～8 世紀初頭の掘立柱建物群が確認され、宮ノ本遺跡では官人墓地が約 100 基確認されている。

調査地一帯は四王寺山の南西裾に位置し、南西部が開けるものの、それ以外は四王寺山から派生した丘陵に囲まれている状況で、土地は扇状地形で緩やかに御笠川に向かって傾斜し、北端を陣ノ尾川、南端を大谷川が流れている。現在は穏やかな微高地であるが、この河川沿岸のほかにも流路が幾条走り、一部では氾濫原のような堆積状況を示しているところもある。

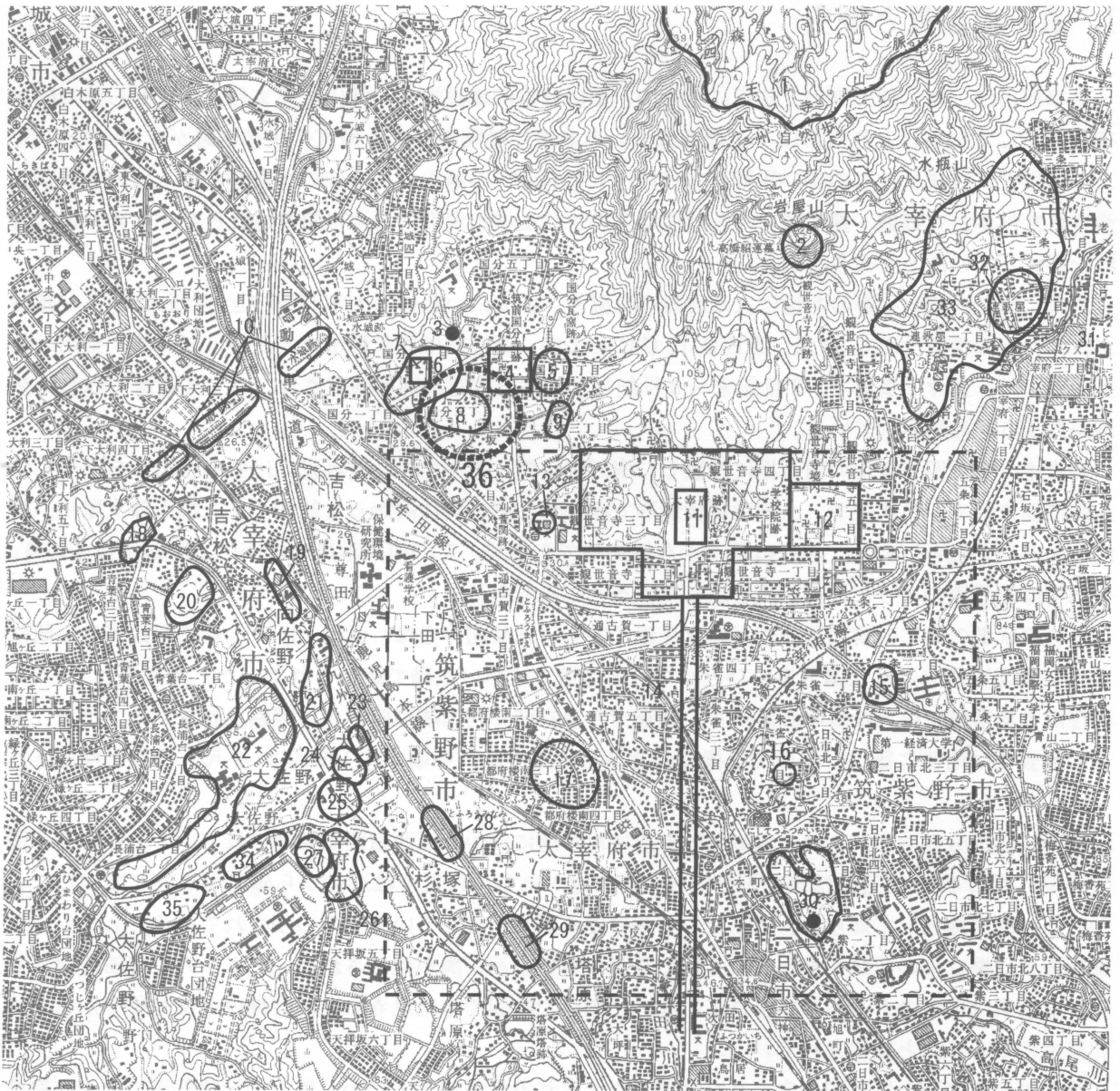
その扇状地の奥には筑前国分寺が建立されている。筑前国分寺は、天平 13(741)年に聖武天皇の詔によって全国に建立された国分寺のひとつで、西海道では早い段階で造営されていたと考えられている。現在は七重塔跡に巨大な塔心礎が残り、調査でも講堂跡や回廊跡が確認され整備されている。また、周辺の調査では南側に築地、東西では柵や南北溝が確認され、寺域は約 185m(620 小尺)四方と推定されている。

その筑前国分寺前面からは、水城東門を抜けた官道に向かう東西道路が確認されていて、その途中国分寺から西に 400m 付近には筑前国分尼寺の推定地がある。付近では近世から礎石が点在していたことからその推定地として知られ、現在でも 2 基の礎石が移動はしているものの残されている。しかし、発掘調査では掘立柱の門跡やそれに取り付く道路や外郭を示す溝が検出されているものの、礎石建物に係る遺構は現在のところ検出されていない。調査で確認できた尼寺の存続時期は 8 世紀後半から 9 世紀後半の 100 年間と推定されている。

筑前国分寺の東方には国分寺の瓦を供給したとされる瓦窯があるほか、周辺の丘陵斜面では大宰府政庁関連施設の瓦を供給したとみられる 10 世紀代の瓦窯(松倉、坂本、来木など)が確認されている。

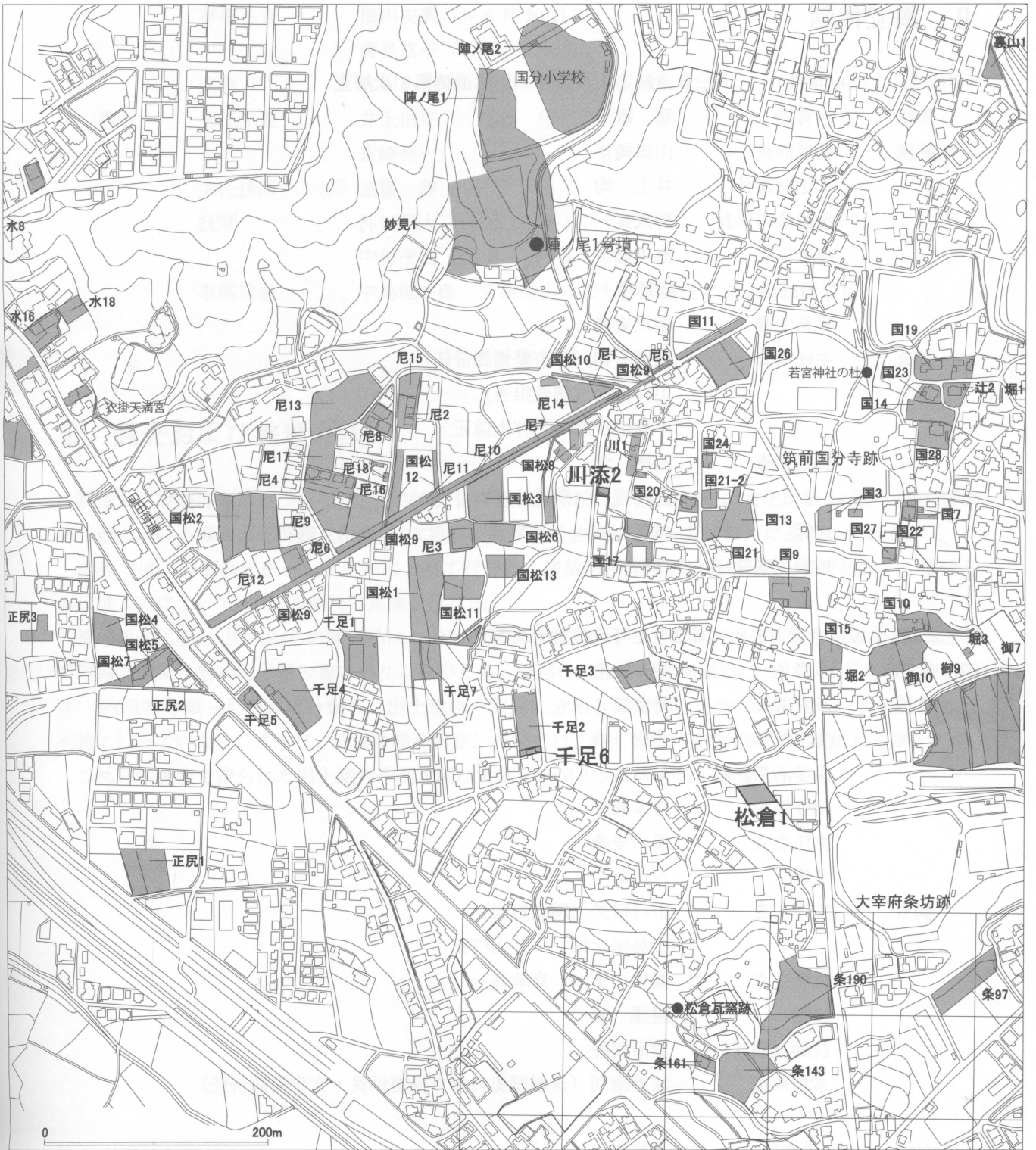
筑前国分尼寺跡周辺の国分松本遺跡や国分千足町遺跡では、弥生時代中期～後期にかけての竪穴住居を伴う集落が検出されている。つまり、弥生時代の集落の上に奈良時代の遺構が広がっている。また、国分松本遺跡からは平成 24 年までに 13 点の木簡が出土した。なかでも戸籍・計帳関係木簡は、嶋郡の戸口の変化を記録したもので、「嶋評」「進大貳」などの文字があり、685～701 年の間に記録されたものと推定されている。

Fig.2 国分地区遺跡分布位置図



- | | | | |
|----------------|-------------------|-----------|---------------------|
| 1. 大野城跡 | 10. 水城跡 | 19. 原口遺跡 | 28. 剣塚遺跡 |
| 2. 岩屋城跡 | 11. 大宰府政庁跡 | 20. 篠振遺跡 | 29. 唐人塚遺跡 |
| 3. 陣ノ尾一号墳 | 12. 観世音寺 | 21. 前田遺跡 | 30. 峯・峯畑遺跡 (●は峯火葬墓) |
| 4. 筑前国分寺跡 | 13. 遠賀団印出土地 | 22. 宮ノ本遺跡 | 31. 太宰府天満宮(安楽寺跡) |
| 5. 辻遺跡 | 14. 大宰府条坊跡(方形破線内) | 23. 雛川遺跡 | 32. 浦城跡 |
| 6. 国分松本遺跡 | 15. 君畑遺跡 | 24. フケ遺跡 | 33. 原遺跡 |
| 7. 筑前国分尼寺跡 | 16. 般若寺跡 | 25. 尾崎遺跡 | 34. 京ノ尾遺跡 |
| 8. 国分千足町遺跡 | 17. 市ノ上遺跡 | 26. 脇道遺跡 | 35. カヤノ遺跡 |
| 9. 御笠団印出土地周辺遺跡 | 18. 神ノ前窯跡 | 27. 殿城戸遺跡 | 36. 今回報告する地域 |

Fig.1 太宰府市とその周辺の遺跡 (1/30,000)



略称

- 国松・・・国分松本遺跡
- 正尻・・・国分正尻遺跡
- 千足・・・国分千足町遺跡
- 尼・・・筑前国分尼寺跡
- 国・・・筑前国分寺跡
- 辻・・・辻遺跡

- 御・・・御笠団印出土地周辺遺跡
- 堀・・・堀田遺跡
- 条・・・大宰府条坊跡
- 水・・・水城跡
- 川・・・川添遺跡
- 陣ノ尾・・・陣ノ尾遺跡
- 妙見・・・妙見遺跡

Fig. 2 国分地区調査位置図 (1/5,000)

II、調査体制

(平成 21 / 2009 年度)・・・松倉遺跡第 1 次調査・川添遺跡第 1 次調査

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	山田純裕
	文化財課長	井上 均
	保護活用係長	菊武良一
	調査係長	池本義彦
	主任主査	吉原慎一
	事務主査	橋川史典
調査	主任主査	城戸康利 (都市整備課併任)
		山村信榮 (調査担当)
		中島恒次郎 井上信正
	技術主査	高橋 学
		宮崎亮一 (調査担当)
	技師	遠藤 茜
	技師 (嘱託)	白石溪冴

(平成 23 / 2011 年度)・・・国分千足町遺跡第 6 次調査

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	齋藤廣之
	文化財課長	井上 均
	保護活用係長	菊武良一
	調査係長	池本義彦
	主任主査	橋川史典
	主事	古川あや
調査	主任主査	山村信榮 (調査担当)
		中島恒次郎 井上信正
	技術主査	高橋 学 宮崎亮一
	技師	遠藤 茜
	技師 (嘱託)	白石溪冴
	事務取扱	城戸康利 (景観歴史のまち推進係長・文化財課併任)

(平成 25 / 2013 年度)・・・報告書発行

総括	教育長	木村甚治
庶務	教育部長	今泉憲治
	文化財課長	菊武良一
	文化財副課長	城戸康利
	保護活用係長	友添浩一
	調査係長	山村信榮

	事務主査	橋川史典 (～6月30日)
		廣見京子 (7月1日～)
	主事	古川あや 有田ゆきな
調査	主任主査	井上信正 高橋 学
		宮崎亮一
	主任技師	遠藤 茜
	技師	沖田正大 (10月1日～)
		中村茂央 (10月1日～)
	事務取扱	中島恒次郎 (景観歴史のまち推進係長・文化財課併任)

Ⅲ、調査および整理方法

調査および整理方法については、『太宰府・佐野地区遺跡群 I』(太宰府市の文化財第14集 1989)、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』(太宰府市教育委員会 2001年9月改訂)に基づいている。

調査では、表土剥ぎをバックホーによって行った。遺構図や土層図は適時 1/20 等で記録し、遺構全体図は人力によって 1/20 の縮尺で実測を行った。

整理報告に際し、国内からの搬入品については形状が確認できるものは極力報告することに努めたが、整理報告作業の効率化と報告書のスリム化のため、規格性が強い輸入陶磁器については『大宰府条坊跡 XV - 陶磁器分類 -』を基に分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測作業は基本的に行っていない。よって、遺構時期の検証については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。

これらの調査で得られた出土遺物や実測図は太宰府市文化ふれあい館に保管している。



IV、調査報告

1、松倉遺跡第1次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市坂本2丁目570番10、570番16、570番17、570番20で、個人住宅の基礎工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は山村信榮が担当し、平成21(2009)年10月14日～10月23日に実施した。開発対象面積は607㎡で、調査面積は54㎡である。

(2) 基本層位

調査地付近は標高39mの地点にあり、大城山の南西斜面を流れる大谷川が形成した扇状地に立地する。

調査前の調査地は水田で、北側に大谷川が接する。表層は灰色の耕作土下に淡黄灰色の床土が40cmほど堆積し、その下に厚さ20cmほどの淡灰色を呈す旧耕作土があり、その下は奈良時代から弥生時代の遺物を含む河川の堆積である20～30cmの白色砂層があり、その下位の一部に奈良時代の遺物包含層である黒灰色シルト層が10～20cm堆積する。北西側には河川の堆積層である灰色シルトと白色砂層の互層が見られる。

(3) 検出遺構

柵列

1SA005 (Fig. 4, Pla. 2)

3つのピット列で、検出長は6.8m、柱間は3.2m、方位はE-16°41'57"-Nを示す。柱穴bは1SA010cと切り合いがあるが、当初は1つの穴として認識して掘り下げ、底に至ってbの穴を認識したため、

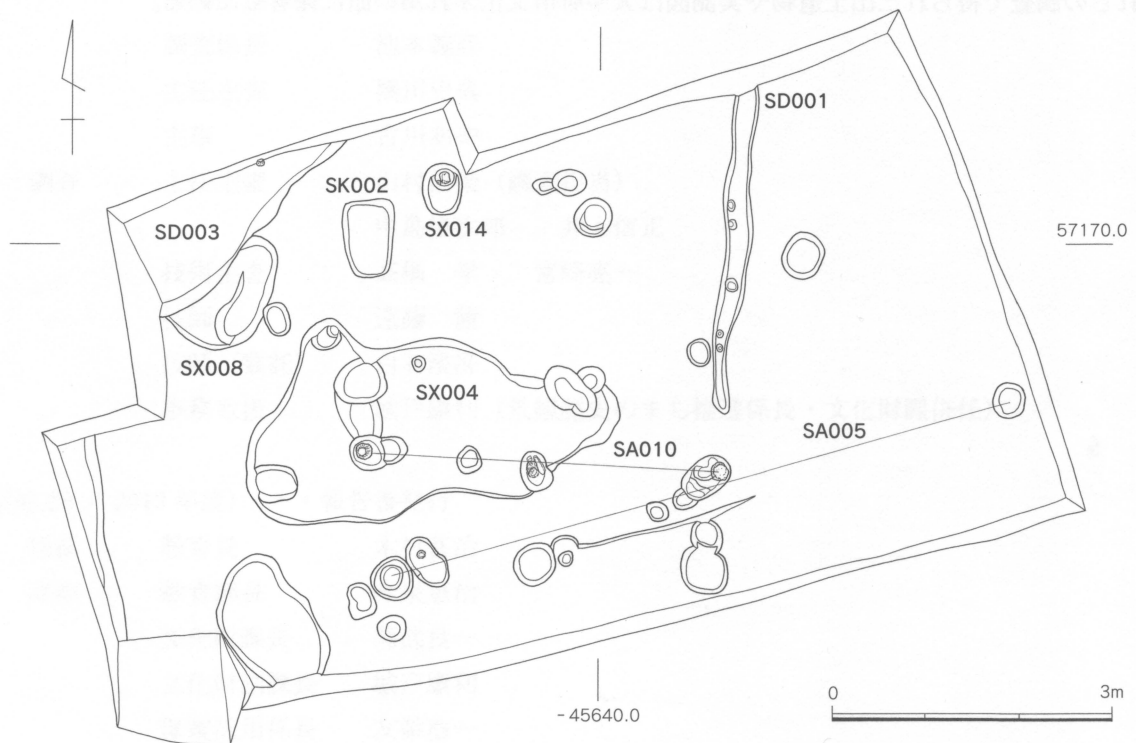
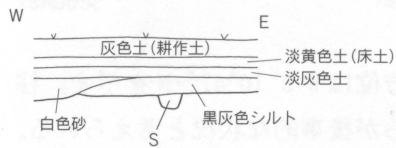
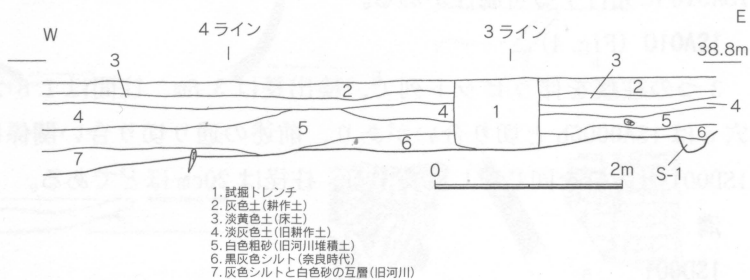


Fig. 3 松倉遺跡第1次調査遺構全体図 (1/80)

調査区土層模式図



北壁土層



1. 試掘トレンチ
2. 灰色土(耕作土)
3. 淡黄色土(床土)
4. 淡灰色土(旧耕作土)
5. 白色粗砂(旧河川堆積土)
6. 黒灰色シルト(奈良時代)
7. 灰色シルトと白色砂の互層(旧河川)

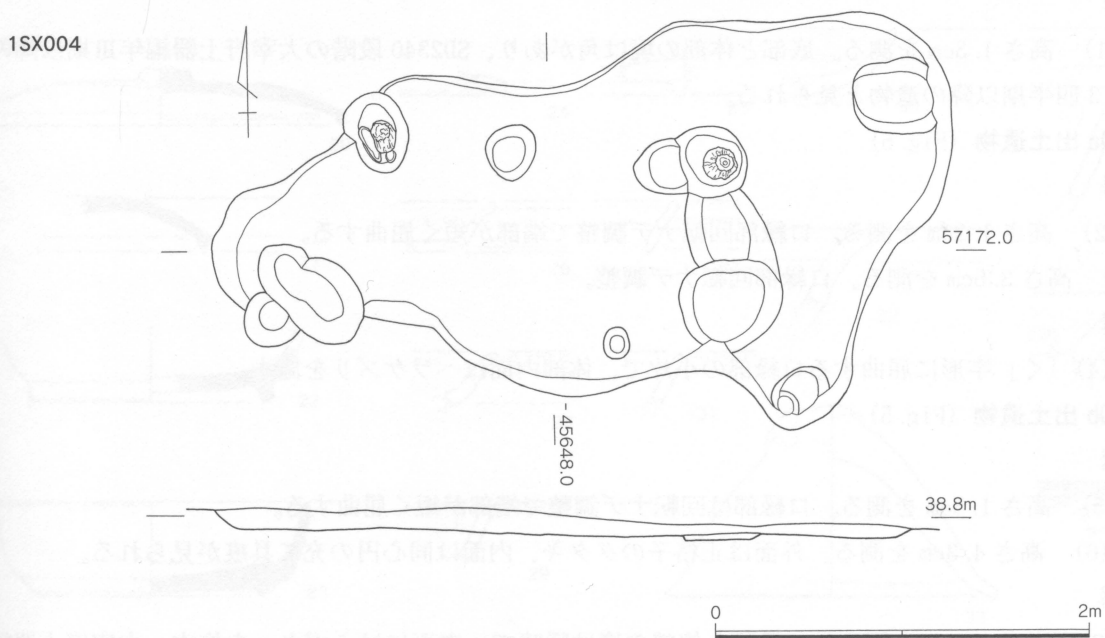
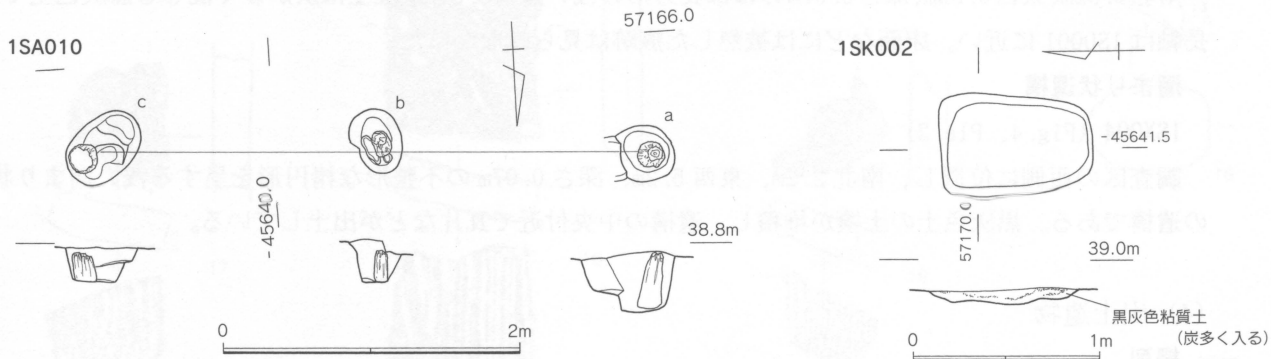
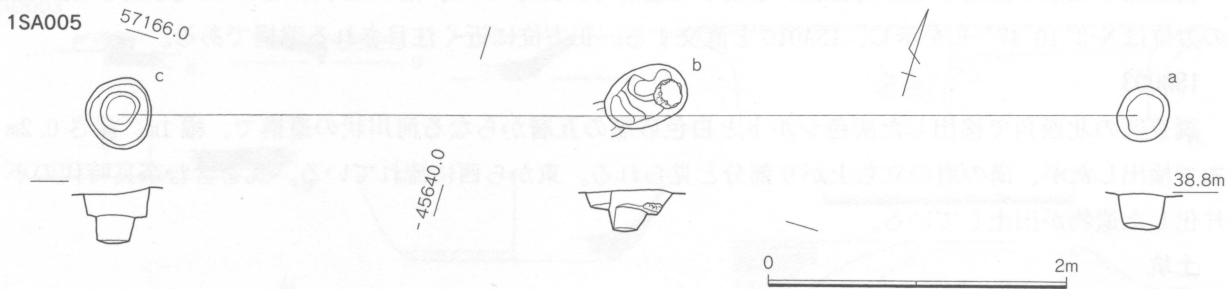


Fig. 4 松倉遺跡第1次調査土層模式図・土層および遺構実測図 (1/40、1/50、1/80)

1SA010 に先行する可能性がある。

1SA010 (Fig. 4)

3つの柱痕を伴うピット列で、検出長は3.8m、柱間は1.8+2.0m、方位は $W-3^{\circ}10'47''-N$ を示す。柱穴cは1SA0005bと切り合いがあり、前述の通り切り合い関係はこちらが後事的な状況と考えられる。1SD001と方位を同じくし直交する。柱径は20cmほどである。

溝

1SD001

調査区の北東で検出した黒灰色土が堆積した遺構で、長さ3.4m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。溝の芯の方位は $N-3^{\circ}10'47''-E$ を示し、1SA010と直交する。正方位に近く注目される遺構である。

1SD003

調査区の北西角で検出した灰色シルトと白色砂層の互層からなる河川状の遺構で、幅1m、深さ0.2mまで検出したが、溝の肩の立ち上がり部分と見られる。東から西に流れている。瓦を含む奈良時代の小片化した遺物が出土している。

土坑

1SK002 (Fig. 4)

南北0.82m、東西0.52m、深さ0.07mのほぼ長方形の浅い遺構である。埋土は炭が多く混じる黒灰色土で、長軸は1SD001に近い。床面などには被熱した痕跡は見られなかった。

溜まり状遺構

1SX004 (Fig. 4, Pla. 2)

調査区の西側に位置し、南北2.2m、東西5.2m、深さ0.07mの不整形な楕円形を呈する浅い溜まり状の遺構である。黒灰色土の土壌が堆積し、遺構の中央付近で瓦片などが出土している。

(4) 出土遺物

柵列

1SA005c 出土遺物 (Fig. 5)

土師器

碗c(1) 高さ1.3cmを測る。底部と体部の境は角があり、SD2340段階の大宰府土器編年Ⅲ期以降の8世紀第3四半期以降の遺物と見られる。

1SA010a 出土遺物 (Fig. 5)

須恵器

蓋3(2) 高さ1.2cmを測る。口縁部回転ナデ調整で端部が短く屈曲する。

坏(3) 高さ3.6cmを測る。口縁部回転ナデ調整。

土師器

小甕(4) 「く」字形に屈曲する口縁部の小片で、体部内面はヘラケズリを施す。

1SA010b 出土遺物 (Fig. 5)

須恵器

蓋3(5) 高さ1.5cmを測る。口縁部は回転ナデ調整で端部が短く屈曲する。

小甕(6) 高さ4.3cmを測る。外面は正格子のタタキ、内面は同心円の充て具痕が見られる。

土師器

皿a(7) 高さ1.3cmを測る。口縁部と体部の境は曖昧で、内面にはミガキaを施す。大宰府土器編

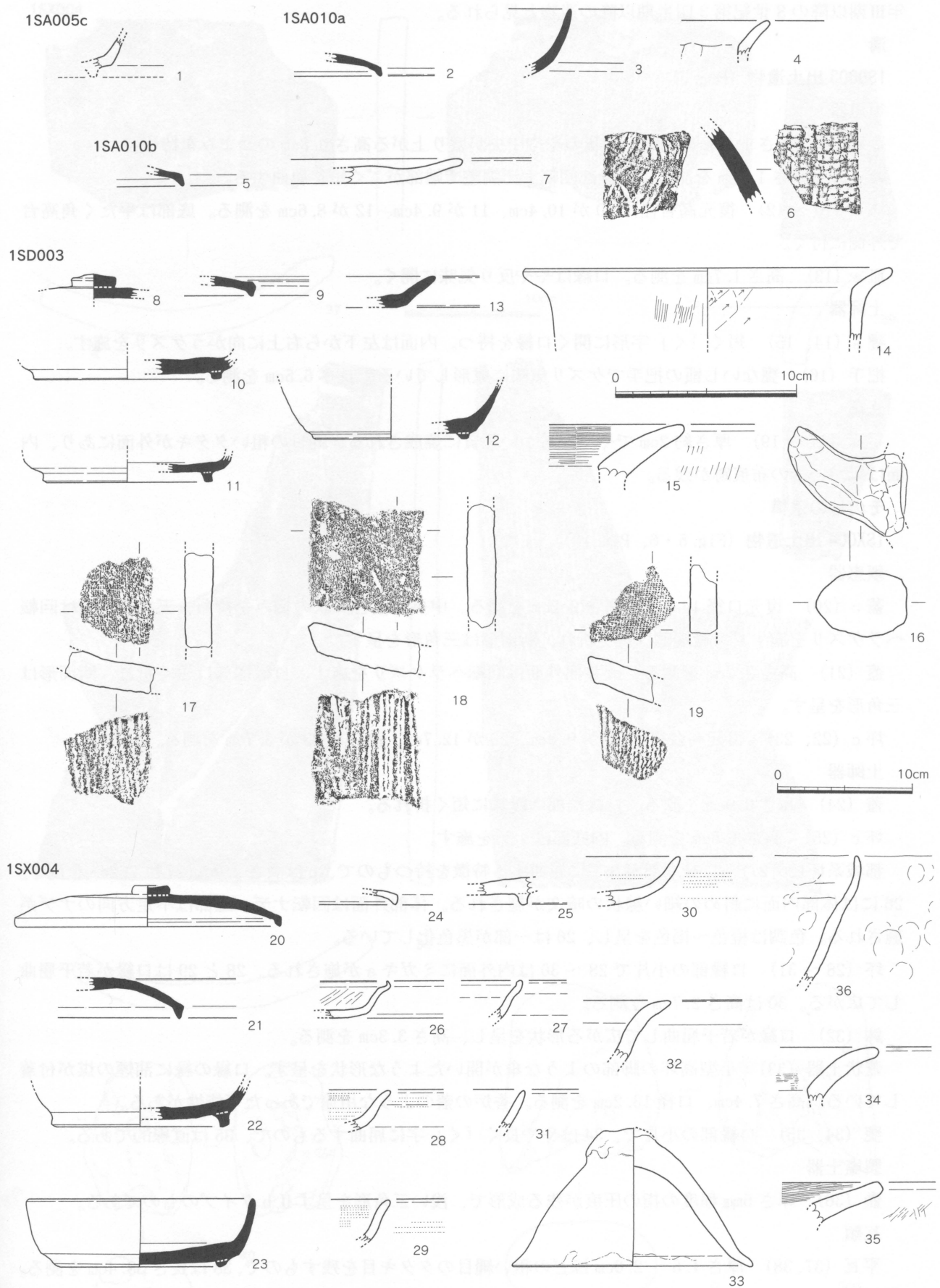


Fig. 5 松倉遺跡第1次調査出土遺物実測図① (1/3、1/4)

年Ⅲ期以降の8世紀第3四半期以降の遺物と見られる。

溝

1SD003 出土遺物 (Fig. 5)

須恵器

蓋 c (8) 高さ 1.3cm を測る。鉤状のやや中央が盛り上がる高さ 0.8cm のつまみを持つ。

蓋 (9) 高さ 1.1cm を測る。口縁部回転ナデ調整で端部がごく短く屈曲する。

坏 c (10～12) 復元高台径は 10 が 10.4cm、11 が 9.4cm、12 が 8.6cm を測る。底部は平たく角高台で外側に付く。

皿 a (13) 高さ 1.7cm を測る。口縁はやや反り気味に開く。

土師器

甕 a (14、15) 短く「く」字形に開く口縁を持つ。内面は左下から右上に向かうケズリを施す。

把手 (16) 甕ないし甔の把手でケズリ気味に成形している。長さ 6.5cm を測る。

瓦類

平瓦 (17～19) 厚さ約 2cm でやや柔らかい瓦質に焼成される。縄目の粗いタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。

その他の遺構

1SX004 出土遺物 (Fig. 5・6、Pla. 10)

須恵器

蓋 c (20) 復元口径 14.6cm、高さ 2.2cm を測る。中央が窪む鉤状の摘みを持ち、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。口縁端部は短く折れ、断面形は三角形を呈す。

蓋 (21) 高さ 2.2cm を測る。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。口縁端部は短く折れ、断面形は三角形を呈す。

坏 c (22、23) 復元高台径は 22 が 9.8cm、23 が 12.7cm、高さは 23 が 3.7cm を測る。

土師器

蓋 (24) 高さ 0.9cm を測る。口縁端部は曖昧に短く折れる。

坏 c (25) 高さ 1.5cm を測る。内底部はナデを施す。

都城系坏(26、27) 口縁端部が S 字に屈曲する特徴を持つもので、26 は高さ 2.0cm、27 は 2.2cm を測る。26 には体部内面に斜めの細い線状の暗文が施される。体部外面は回転ナデ、底部は不定方向のナデが施される。色調は橙色～褐色を呈し、26 は一部が黒色化している。

坏 (28～31) 口縁部の小片で 28～30 は内外面にミガキ a が施される。28 と 29 は口縁が若干屈曲して広がる。30 は高さ 2.7cm を測る。

鉢 (32) 口縁が若干屈曲して広がる形状を呈し、高さ 3.3cm を測る。

蓋状土器 (33) 小型高坏の脚部のような傘が開いたような形状を呈す。口縁の縁に油煙の煤が付着している。高さ 7.4cm、口径 13.2cm を測る。香炉の蓋のような用途であった可能性がある。

甕 (34、35) 口縁部の小片で、34 はやや長く「く」字に屈曲するもので、35 は直線的である。

製塩土器

壺 (36) 厚さ 5mm 程度の指の圧痕が残る成形で、浅い三角形を呈す II b タイプのものである。

瓦類

平瓦 (37、38) 厚さ 1.5～2.0cm ほどの粗い縄目のタタキ目を残すもので、38 は長さ 38.4cm を測る。焼成は 37 がやや軟質、38 は硬質。内面に幅 3cm ほどの桶の板幅を示す段差が残される。

1SX004

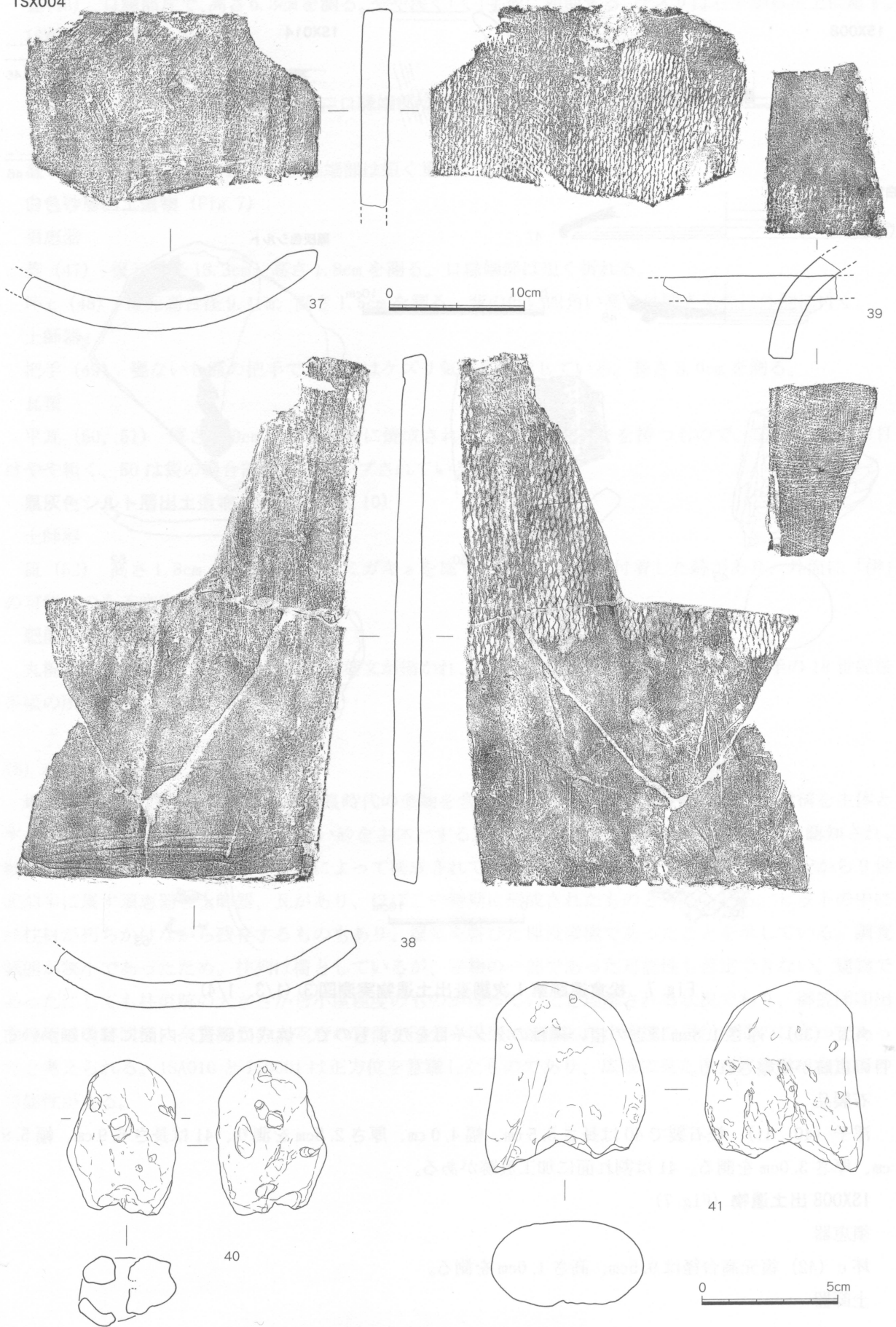


Fig. 6 松倉遺跡第1次調査出土遺物実測図② (1/2、1/4)

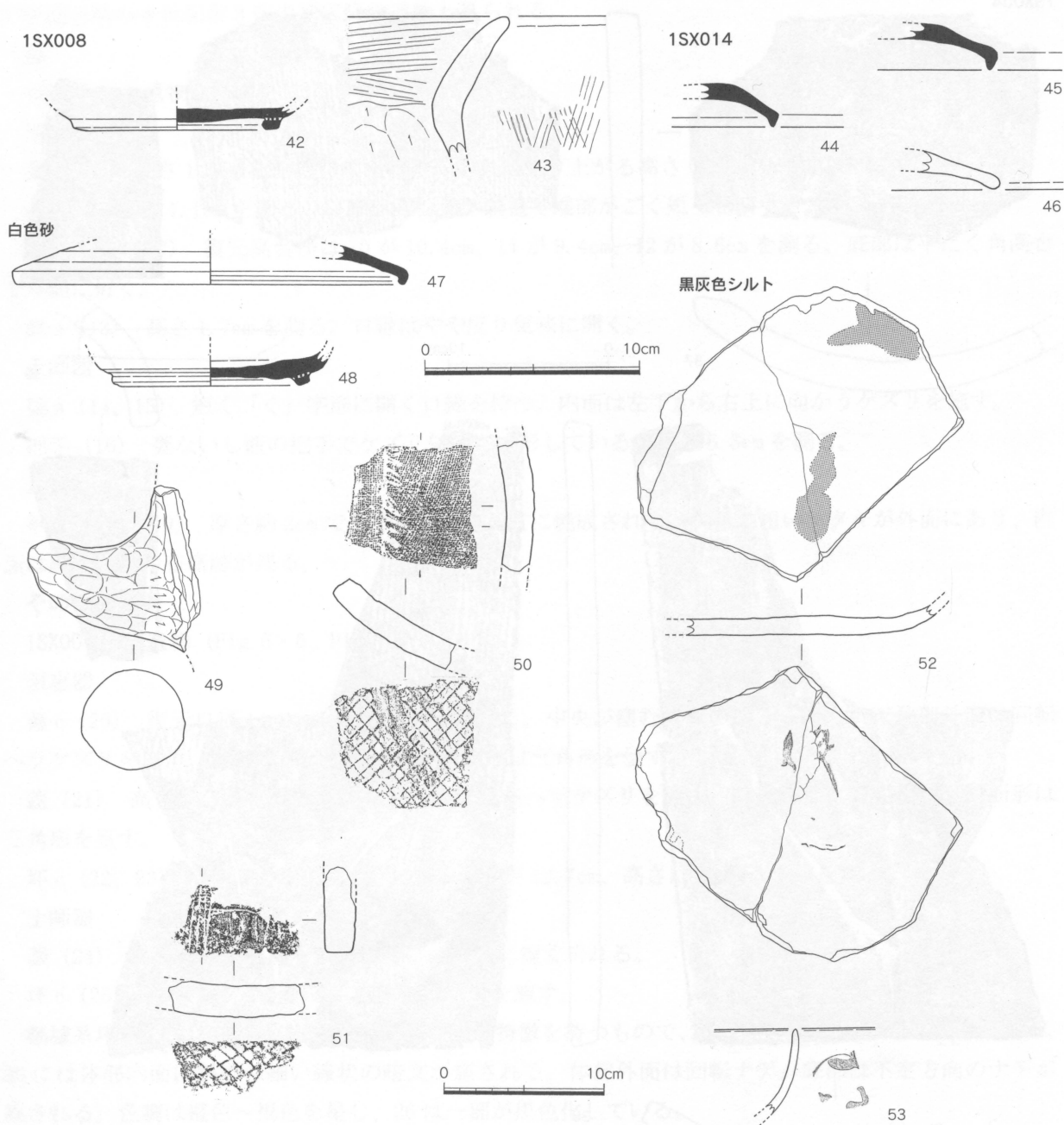


Fig. 7 松倉遺跡第1次調査出土遺物実測図③ (1/3、1/4)

丸瓦 (39) 厚さ 1.8cm ほどの粗い縄目のタタキ目を残すもので、焼成は硬質。内面に目の細かい布目の痕跡が観察される。

石製品

浮子 (40、41) 軽石製で 40 は長さ 5.5 cm、幅 4.0 cm、厚さ 2.5cm を測り、41 は長さ 6.9 cm、幅 5.8 cm、厚さ 3.0cm を測る。41 は割れ面に加工痕跡がある。

1SX008 出土遺物 (Fig. 7)

須恵器

坏 c (42) 復元高台径は 9.5cm、高さ 1.0cm を測る。

土師器

甕(43) 口縁部片で、高さ6.3cmを測る。やや浅く「く」字形に屈曲する。ケズリは右下から左上に施す。

1SX014 出土遺物 (Fig. 7)

須恵器

蓋 3 (44、45) 高さ2.0cmを測る。口縁端部は短く折れ断面形が三角形を呈す。

土師器

蓋 (46) 高さ1.8cmを測る。口縁端部は短く垂下する程度に曲がる。

白色砂層出土遺物 (Fig. 7)

須恵器

蓋 (47) 復元口径18.3cm、高さ1.8cmを測る。口縁端部は短く折れる。

坏 c (48) 復元高台径9.1cm、高さ1.5cmを測る。背の低い四角い高台は開き気味に外側に付く。

土師器

把手 (49) 甕ないし甗の把手で接合部はケズリ気味に成形している。長さ8.0cmを測る。

瓦類

平瓦 (50、51) 厚さ2.0cmほどの硬質に焼成された格子目のタタキを持つもので、51は内面の布目はやや粗く、50は袋の縫合部位がスタンプされている。

黒灰色シルト層出土遺物 (Fig. 7、Pla. 10)

土師器

皿 (52) 高さ1.8cmを測る。内面にミガキ a を施す。内面には煤が付着した跡があり、外面に「伊」の可能性のある文字が墨書されている。

肥前系染付磁器

丸椀 (53) やや発色の悪い呉須で草葉文が描かれ、体部が丸みを帯びる。くらわんか手の18世紀後半頃の所産と思われる。

(5) 小結

地表下約0.8mで弥生時代および奈良時代の遺物を含む包含層が、約1m下で奈良時代の遺構を主体とする遺構面が検出された。遺構は粗い砂を主体とする地盤に形成された1面の遺構面として認知され、柵列、溝、たまり状遺構、ピット群によって構成されている。遺構からの出土遺物には8世紀から9世紀前半に属す須恵器と土師器、瓦があり、ほぼこの時期に形成されたものと考えられる。ピットの中には柱材が朽ちかけながら残存するものもあり、湿気を帯びた埋没環境であったことを示している。調査範囲が狭小であったため、柱列は柵としているが、建物の一部であった可能性も否定できない。建物であったにしても柱痕跡の大きさから小屋程度のものが建っていたと理解される状況であり、御笠団印出土地周辺遺跡同様に奈良時代の大宰府の官衙、国分寺周辺に展開した小規模な居住空間のひとつであったと考えられる。1SA010と1SD001は正方位を意識したものであり、広域に見た中で評価すべき遺構の可能性はある。

表1 松倉遺跡第1次調査 遺構一覽表

S-番号	遺構番号	種別	時期	地区番号
1	1SD001	溝	奈良時代	B2
2	1SK002	土坑	奈良時代	C3
3	1SD003	旧河川	奈良時代	C4
4	1SX004	溜まり状	8世紀～	B3
5	1SA005	柵	奈良時代	Bライン
6		pit		A2
7		pit		B3
8	1SX008	溜まり状	8世紀～	C4
9	1SA010b	pit	奈良時代	B3
10	1SA010	柵	奈良時代	B3
11	1SA010a	pit	奈良時代	B4
12		pit	8世紀～	B3
13		pit		B3
14	1SX014	pit		B3

表2、松倉遺跡第1次調査 出土遺物一覽表

S-番号	遺物	S-番号	遺物
S-3	須恵器蓋3 蓋c 蓋(転用硯) 坏c3 皿a 小甕 土師器坏a 甕a? 把手 瓦類 平瓦(土師質、縄目I) 平瓦(瓦質、縄目I)	S-9	須恵器蓋3 甕 土師器蓋? 坏×皿 高坏 甕
S-4	須恵器蓋3 坏c3 土師器蓋3 坏 坏×皿c 皿(都城系) 皿a 甕a 製塩土器壺I 壺II-b 瓦類 平瓦(瓦質、縄目I、無文) 丸瓦(瓦質、縄目I、瓦質、無文) 石製品 浮子(軽石)	S-11	須恵器蓋3 坏 土師器小甕 鉢? 製塩土器壺 瓦類 平瓦(瓦質、縄目I)
S-5b	土師器甕a?	S-12	須恵器蓋3 土師器甕
S-5c	土師器坏	S-13	須恵器坏 小甕 土師器甕?
S-6	土師器坏a?	白色砂	須恵器蓋3 坏a2 坏c3 高坏 皿a 土師器甕 把手 瓦類 平瓦(須恵質、小格子目) 平瓦(土師質、小格子目)
S-7	土師器蓋3 甕?	黒灰色シルト	須恵器蓋1 蓋3 坏a2 坏c3 皿a 甕 壺b? 壺e? 鉢b 土師器高坏 高坏(古墳前期) 皿a(墨書「伊」?) 小甕 甕a 肥前系陶磁器 染付; 丸底坏(くらわんか手) 瓦類 平瓦(須恵質、縄目I) 平瓦(瓦質、縄目I、無文)
S-8	須恵器坏c3 土師器坏a? 甕a		

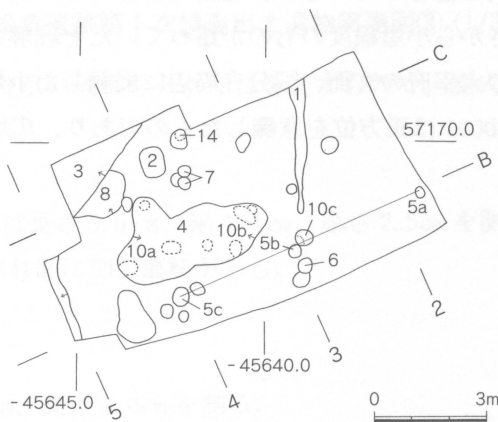


Fig. 8 松倉遺跡第1次調査遺構略側図 (1/200)

2、川添遺跡第2次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市国分3丁目627-1、628の一部で、筑前国分寺跡の西外郭線から西に90m付近に位置する。平成21(2009)年10月26日、文化財についての問い合わせがあり、確認調査は平成22(2010)年1月10日に実施し遺構を確認した。宅地部分の計画は遺構に影響がなかったものの、それに取り付く新設の道路が遺構を削平することがわかり、発掘調査をすることとなった。

また、平成22(2010)年3月2日、南側の宅地との境界部分も追加工事の計画があがり、当初調査分終了後に追加調査を行った。調査は平成22(2010)年2月23日～3月29日に実施した。開発対象面積は85.2㎡で、調査面積は55㎡である。

(2) 基本層位

調査地付近は東から西に向かって土地が低くなっていく地形のため、調査地と比較し、東側の土地は約0.3m高く、西側の市道は0.7m低いという状況である。

調査直前まで調査地は畑地で、前述の地形のため東側からの湧水があり、調査区の東側の遺構が浸水する状況になった。厚さ約0.2mの耕作土を除去すると東半分は遺構面に到達する。西側のSX001付近では、いわゆる床土のような明灰褐色土が厚さ0.15mほど堆積する。



Fig. 9 川添遺跡第2次調査遺構全体図 (1/70)

(3) 検出遺構

柵列

2SA005 (Fig. 10, Pla. 4)

4つの柱痕を伴うピット列で、検出長は3.2mで、方位はほぼ南北を示す。柱間は0.9～1.2mと不統一で、南には続いていることから、柵列ではない可能性もある。dに関しては、切り合っているS-33でも柱痕を確認し、どちらをとっても柵列が成立するため、隣接地の調査によって確定すべきであろう。

この柵列は筑前国分寺西外郭線から西に約94mに位置する。

土坑

2SK010 (Fig. 10)

南北1.62m、東西1.60m、深さ0.05～0.08mのほぼ正方形の浅い土坑である。埋土は炭混じりの茶褐色粘質土で、底面は僅かに凸凹で、径0.28m、深さ0.1mのピットがある。遺物は出土していないが、調査区北端に同様の形状をした遺構を検出している。

段落ち

2SX001 (Fig. 10, Pla. 5)

調査区の西側に位置し、底面と東側の遺構面との高低差は約0.65mを測る。検出範囲が狭いものの東肩の方位はほぼ南北を示している。堆積の状況から、東にある筑前国分寺の瓦礫を埋めて、平坦地を確保し、土地を広げたものと推測される。出土遺物のほとんどが10世紀代までのもので、僅かに含む12世紀中～後半までの遺物より平安後期に埋めた可能性が高い。瓦礫については西側の市道下に続いている。段落ちの始まりである東肩は、筑前国分寺西外郭線から西に約97.4mに位置する。また、西側を現在道路が通っていることを考えると、この底面を以前から通行していた可能性は十分考えられる。

(4) 出土遺物

柵列

2SA005a 出土遺物 (Fig. 11)

土師器

碗c(1) 復元高台径8.7cm。高台は底部端に貼付する。胎土は微細な白色砂粒や金雲母を多く含み、淡橙色を呈する。焼成不良で全体的に磨滅する。

土坑

2SK010 出土遺物 (Fig. 11)

須恵器

蓋c(2) 復元口径14.7cm。口縁部回転ナデ、体部中位は両面ナデ調整。焼成良好で淡灰青色を呈する。

坏c(3) 復元高台径9.2cm。内外面ヨコナデ。色調は暗灰色や黄褐色を呈する。S-18より出土。

高坏(4) 内外面とも回転ナデ。色調は暗灰色を呈する。S-18より出土。

瓦類

平瓦(5) 縄目の叩き。

段落ち

2SX001 灰茶色土出土遺物 (Fig. 12, Pla. 11)

須恵器

碗(1) 復元底径6.6cm。胎土は白色砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。外面底部切り離しは回転糸切り。内面はヨコナデ。篠窠。

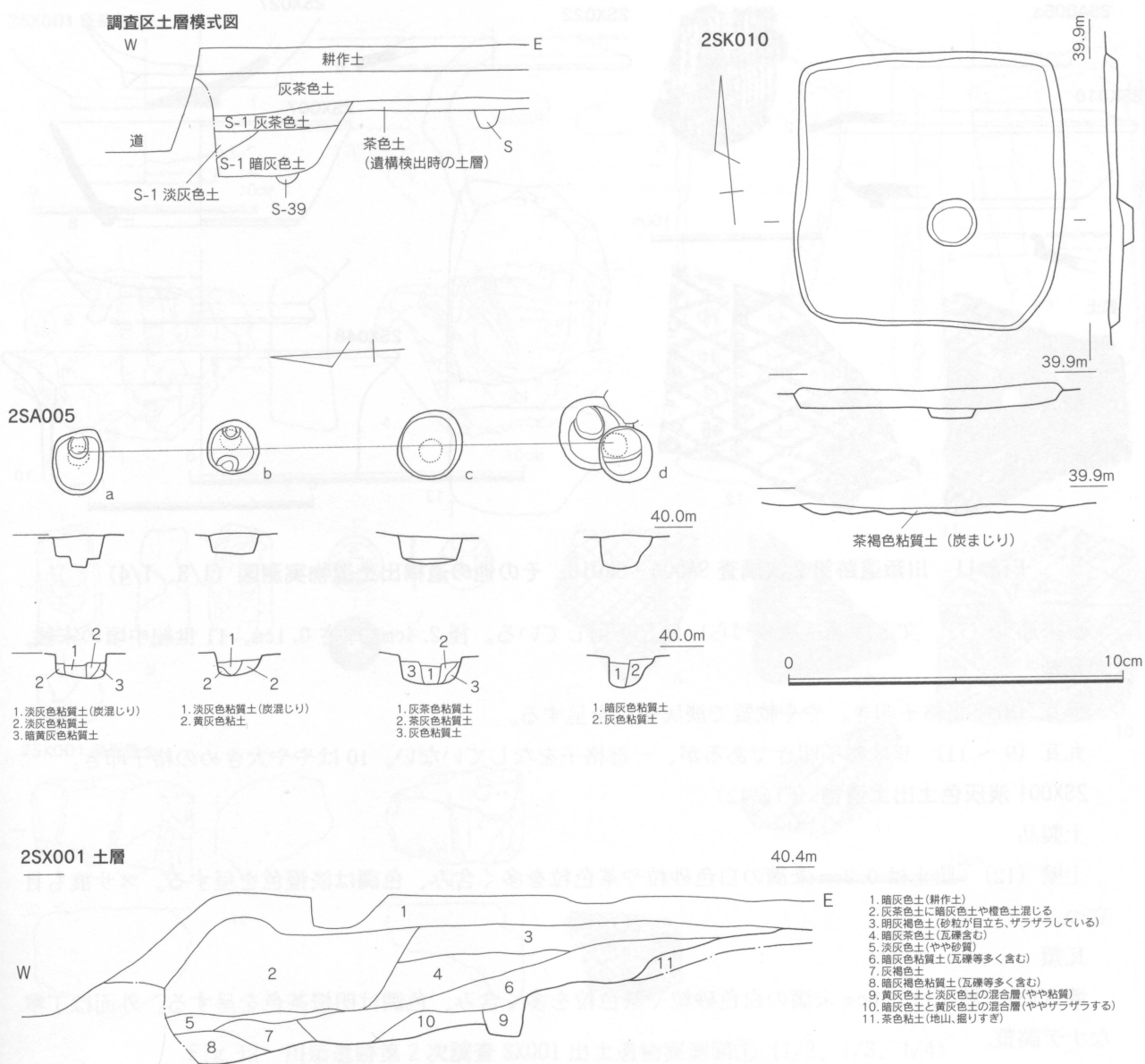


Fig. 10 川添遺跡第2次調査土層模式図及び遺構実測図 (1/40)

土師器

碗 c (2) 復元高台径 6.2cm。全体的に磨滅する。色調は淡黄白色を呈する。

甕 (3) 体部内面はヘラケズリ、外面は磨滅するが、屈曲部に指押しえ痕とタテハケが確認できる。胎土は白色砂粒などを多く含み、茶灰色を呈する。

石製品

滑石加工品 (4, 5) 4は石鍋を再利用したもので、内外面にそのケズリ痕跡があり、断面も二次加工のケズリ痕跡がみられる。5. 15 × 7.5cm、厚さ 1.9cm。5は長方体にケズリ出し、両面に円孔をあける。それぞれ径 1.15 ~ 1.5cm、深さ 0.9cm と径 0.4cm、深さ 0.3cm であるが、互いには繋がっていない。縦 3.4cm、横 1.9cm、厚さ 1.5cm。

石鎌 (6) 欠損し全形が掴めない。両面の端部を研磨し、刃部を作り出しているが刃先は丸くなっている。石鎌と報告するが用途はやや不明瞭。現存長 10.45cm、幅 5.2cm、厚さ 1.5cm。

金属製品

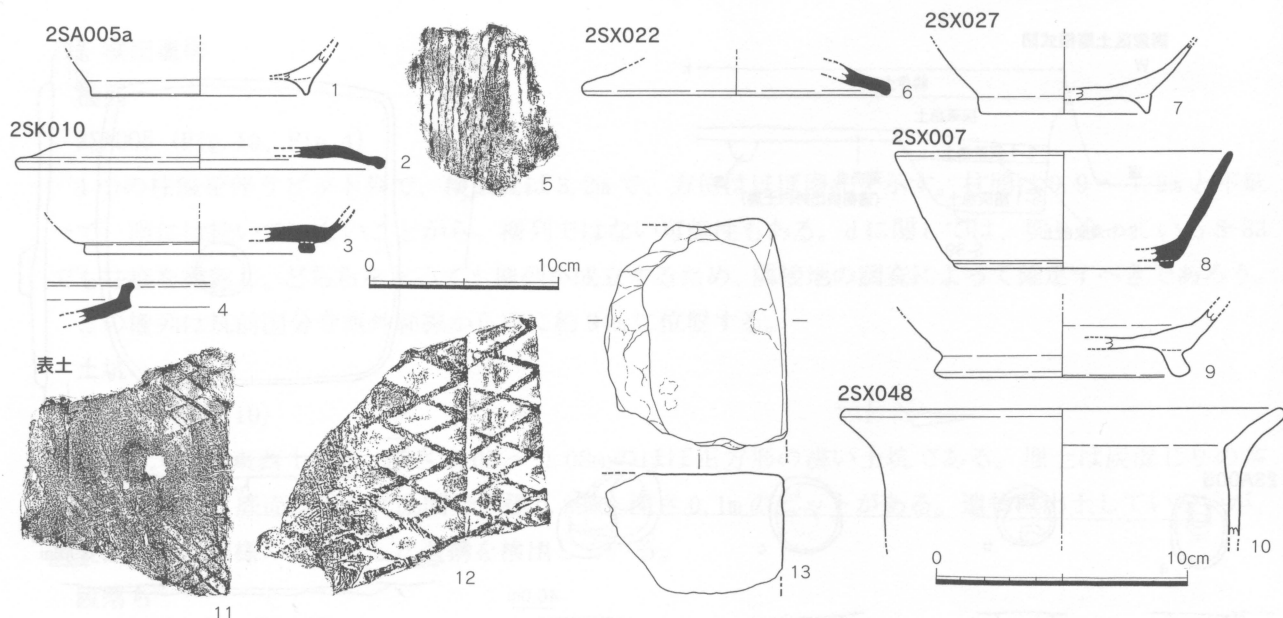


Fig. 11 川添遺跡第2次調査 SA005・SK010、その他の遺構出土遺物実測図 (1/3、1/4)

皇宋通宝 (7) 文字は読み取りづらいほど劣化している。径 2.4cm、厚さ 0.1cm。11 世紀中頃の宋銭。
瓦類

平瓦 (8) 正格子叩き。やや軟質で淡灰褐色を呈する。

丸瓦 (9~11) 9は格子叩きであるが、一部格子をなしていない。10はやや大きめの格子叩き。

2SX001 淡灰色土出土遺物 (Fig. 12)

土製品

土壁 (12) 胎土は 0.3cm 未満の白色砂粒や茶色粒を多く含み、色調は淡橙色を呈する。スサ痕も目立つ。

瓦類

埴 (13) 胎土は 0.6cm 未満の白色砂粒や茶色粒を多く含み、色調は明橙茶色を呈する。外面は丁寧なナデ調整。

平瓦 (14) やや大きな格子叩き。焼成良好で灰褐色や灰色を呈する。

2SX001 暗灰色土出土遺物 (Fig. 13・14、Pla. 11)

土師器

甕 (15、16) 15は外面タテハケのあと煤が付着している。内面はヘラケズリで一部煤が付着する。16は全体的に磨滅するが外面にはタテハケに指押さえ痕が残る。色調は明橙色を呈する。

黒色土器

椀 c (17、18) 共に A 類。17は高台径 6.9cm。内外面磨滅し調整不明。18は復元高台径 7.0cm。

灰釉陶器

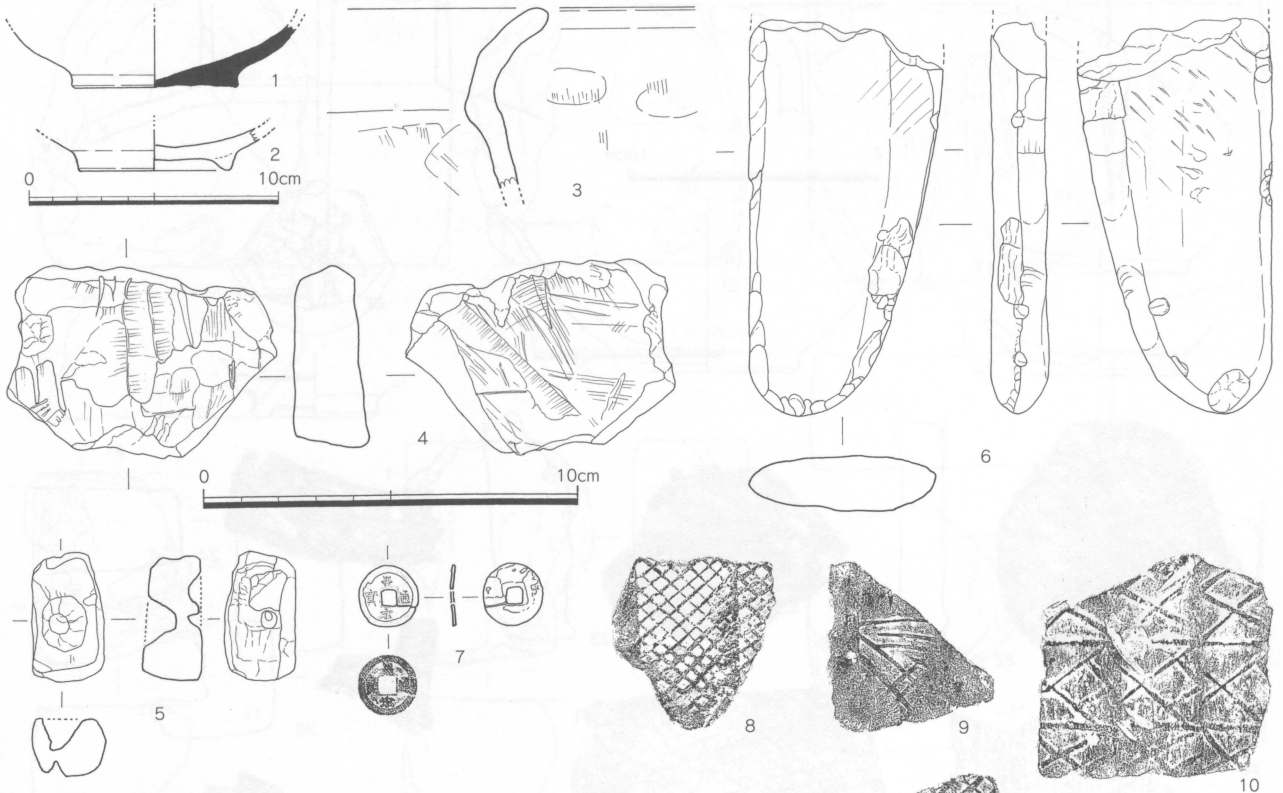
壺 (19) 胎土は精製され灰黄色を呈する。くびれ部内面はやや張り出している。外面肩部は灰緑色釉を施す。体部内面は回転ナデで施釉しない。頸部外面は回転ナデの後透明釉を施す。頸部内面は回転ナデの後釉が点在している。

越州窯系青磁

椀 (20) I-2b ウ類。緑灰色釉を全面に施し、高台畳付の目跡はケズリ消している。

龍泉窯系青磁

2SX001 灰茶色土



2SX001 淡灰色土

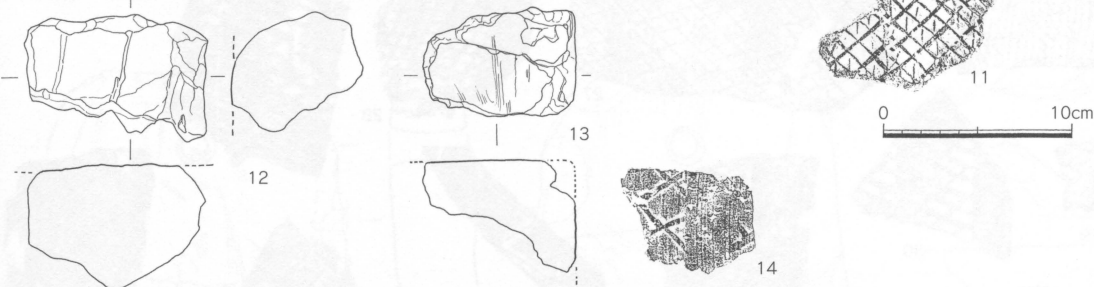


Fig. 12 川添遺跡第2次調査 SX001 出土遺物実測図① (1/2、1/3、1/4)

碗 (21) I類。内面底部には花文の印刻があり、その上に付着物がある。

瓦類

軒丸瓦 (22、23) 22の胎土は白色砂粒を多く含み、色調は淡灰色を呈する。瓦当面は単弁重弁の菊花状弁で、外縁素文、中房は1+8のようである。磨滅が著しい。23の胎土は白色砂粒を多く含み、色調は暗灰褐色を呈する。瓦当面は複弁で外縁は素文である。磨滅が著しい。

軒平瓦 (24、25) 24の胎土は白色砂粒を多く含み、色調は白黄色を呈する。磨滅が目立つが、瓦当面には均整唐草文を残す。25の胎土は白色砂粒を多く含み、色調は黒色や褐色を呈する。磨滅が著しく瓦当面には僅かに文様が見える程度である。

平瓦 (26～35) 26は縄目叩き。30は狭い斜格子叩き。32は菱形の格子叩き。33は「佐」の文字の叩きがある。34・35は大きめの斜格子叩き。

丸瓦 (36～38) 36は斜格子叩き。37は正格子叩き。

埴 (39～46) 全体として胎土には0.3cm以下の白色砂粒を含んでいて、表面はナデ調整される。39は焼成やや不良の黄灰白色で、幅14.7cm、厚さ6.7cm。40は両面とも幅広の板状工具でナデ調整する。

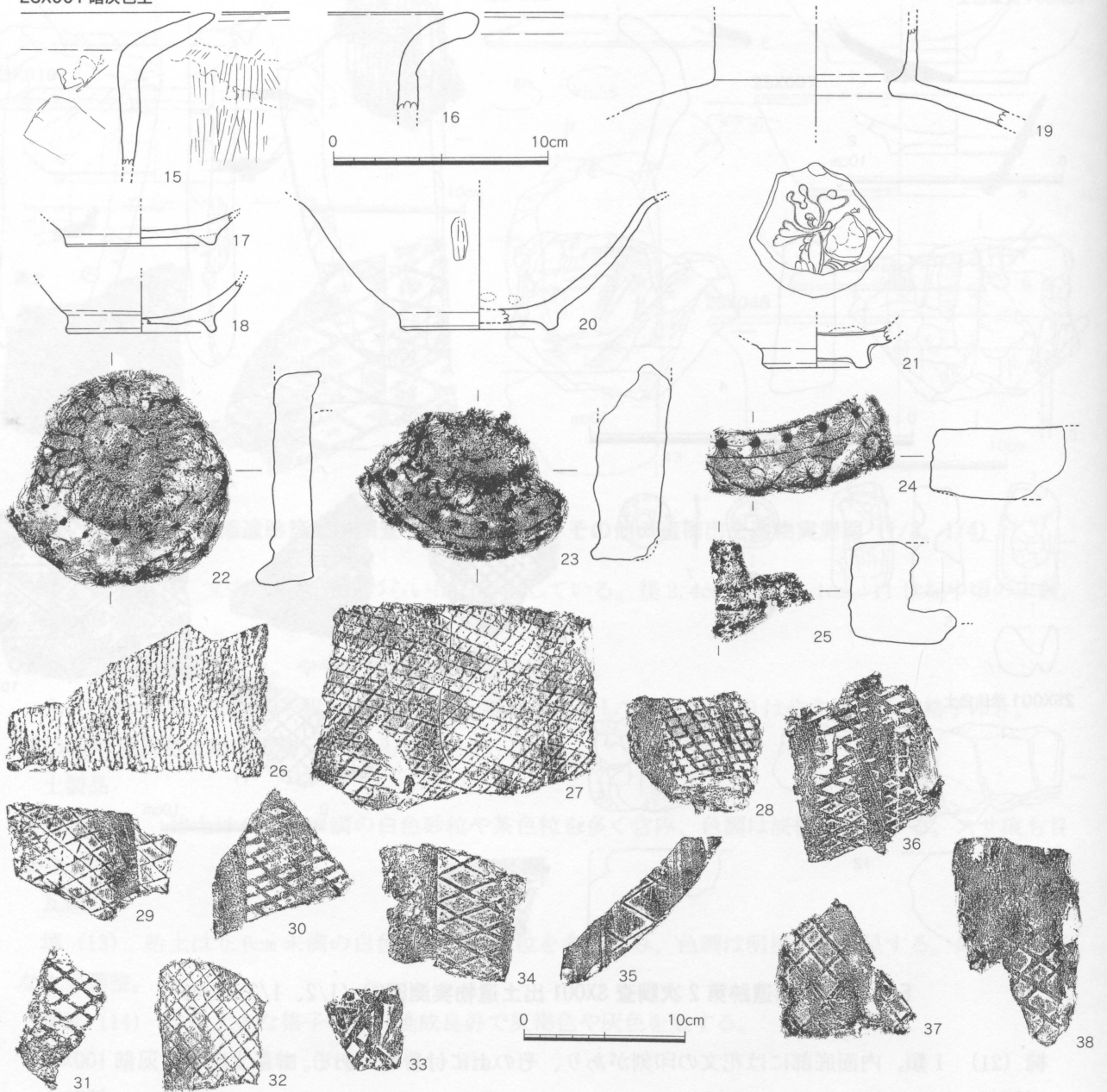


Fig. 13 川添遺跡第2次調査 SX001 出土遺物実測図② (1/3、1/4)

焼成は良好で須恵質となり淡灰色を呈する。幅 16.3 cm、厚さ 6.0 cm。41 は焼成良好で瓦質となり、灰白色を呈する。厚さ 5.6 cm。42 は焼成良好で瓦質となり、黄灰色を呈する。厚さ 6.1 cm。43 は白黄色で、厚さ 5.6 cm。44 は灰白色を呈する。45 は黄灰白色を呈する。表面磨滅する。46 は焼成良好で瓦質となり白灰色を呈する。表面はナデ調整であるが、1 面だけ縄目をナデ消した痕跡がみられる。厚さ 5.7 cm。

石製品

滑石加工品 (47) 石鍋を再利用したものとみられ、表面はケズリ調整され、一部自然面が残る。断面部もケズリ調整する。径 1 cm の円孔を穿つ。8.3 × 8.6 cm、厚さ 2.3 cm。

砥石 (48) 全面に研磨痕跡を残す。最大幅 9.0 cm、最大厚 4.0 cm。砂岩製。

その他の遺構

2SX022 出土遺物 (Fig. 11)

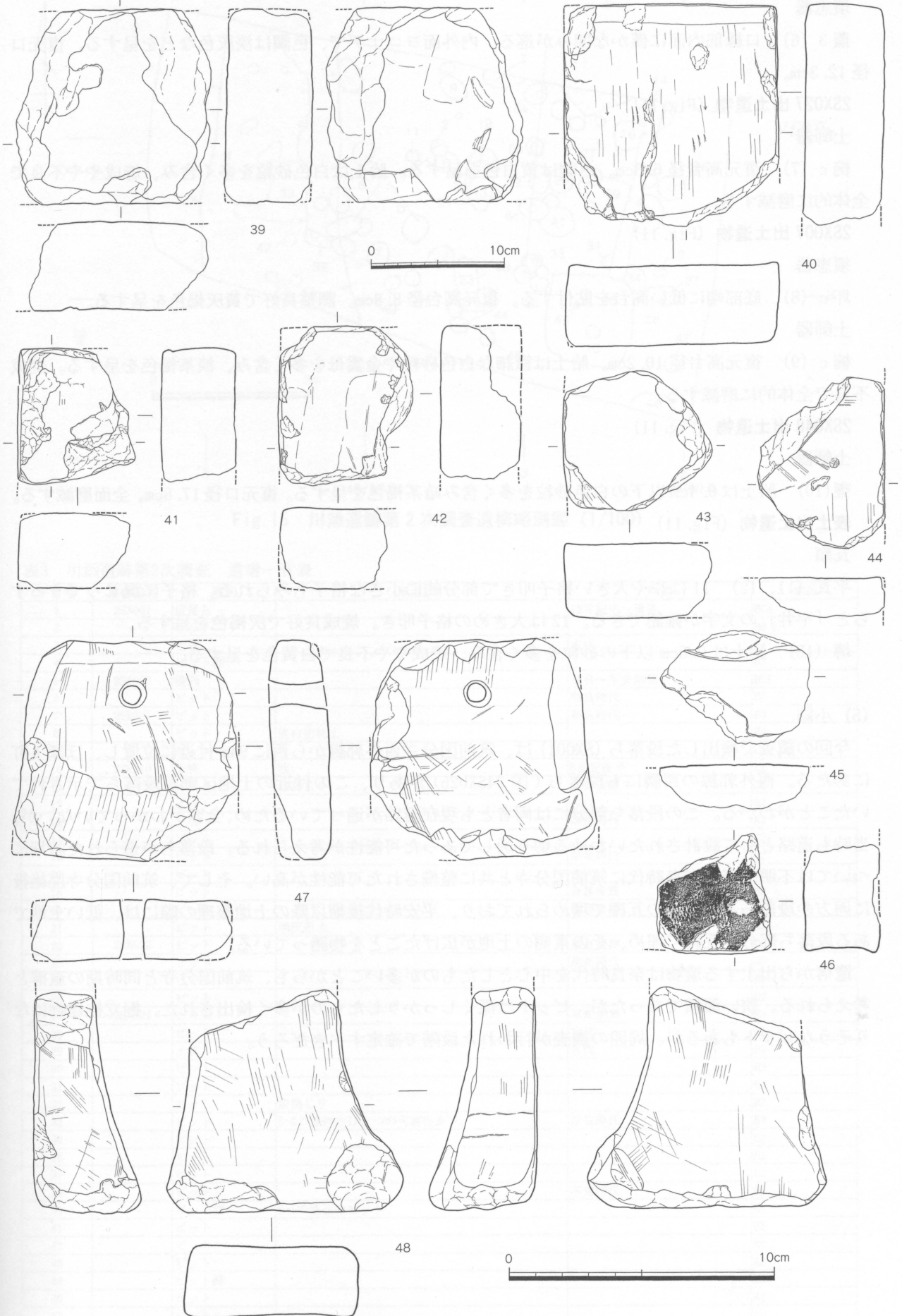


Fig. 14 川添遺跡第2次調査 SX001 出土遺物実測図③ (1/2、1/4)

須恵器

蓋 3 (6) 口縁部内面に僅かな凹みが巡る。内外面ヨコナデで、色調は淡灰色などを呈する。復元口径 12.3cm。

2SX027 出土遺物 (Fig. 11)

土師器

碗 c (7) 復元高台径 6.8cm。色調は黄白色を呈する。胎土は白色砂粒を多く含み、焼成やや不良で全体的に磨滅する。

2SX007 出土遺物 (Fig. 11)

須恵器

坏 c (8) 底部端に低い高台を貼付する。復元高台径 8.8cm。調整良好で黄灰褐色を呈する。

土師器

碗 c (9) 復元高台径 10.2cm。胎土は微細な白色砂粒や金雲母を多く含み、淡茶褐色を呈する。焼成不良で全体的に磨滅する。

2SX048 出土遺物 (Fig. 11)

土師器

甕(10) 胎土は 0.4cm 以下の白色砂粒を多く含み暗茶褐色を呈する。復元口径 17.8cm。全面磨滅する。

表土出土遺物 (Fig. 11)

瓦類

平瓦 (11、12) 11 はやや大きい格子叩きで部分的に小さな格子もみられる。格子に混じってうっすらと「平井」の文字が確認できる。12 は大きめの格子叩き。焼成良好で灰褐色を呈する。

埴 (13) 胎土は 0.5cm 以下の砂粒を多く含み、焼成やや不良で白黄色を呈する。

(5) 小結

今回の調査で検出した段落ち (SX001) は、筑前国分寺西外郭線から西に 94m 付近に位置し、ほぼ 1 町にあたる。西外郭線の西隣にも段落ち (国 24SX025) があり、この付近の土地区画が段落ちで示されていたことがわかる。この段落ち部分には両者とも現在道路が通っているため、全容がわかっていないが、当時も道路として設計されたいわゆる切り通しであった可能性が考えられる。段落ちが造られた時期については不明だが、奈良時代に筑前国分寺と共に整備された可能性が高い。そして、筑前国分寺廃絶後に両方の段落ちとも多量の瓦礫で埋められており、平安時代後期以降の土地整理の際には、低い土地である段落ち部分を瓦礫で埋め、その東側の土地を広げたことを物語っている。

遺構から出土する遺物は奈良時代を中心としたものが多いことから、筑前国分寺と同時期の遺構と考えられる。狭い面積であったが、ピットは深くしっかりしたものが多く検出された。掘立柱建物になりそうなピットもあるが、周囲の調査が行われた段階で確定すべきだろう。

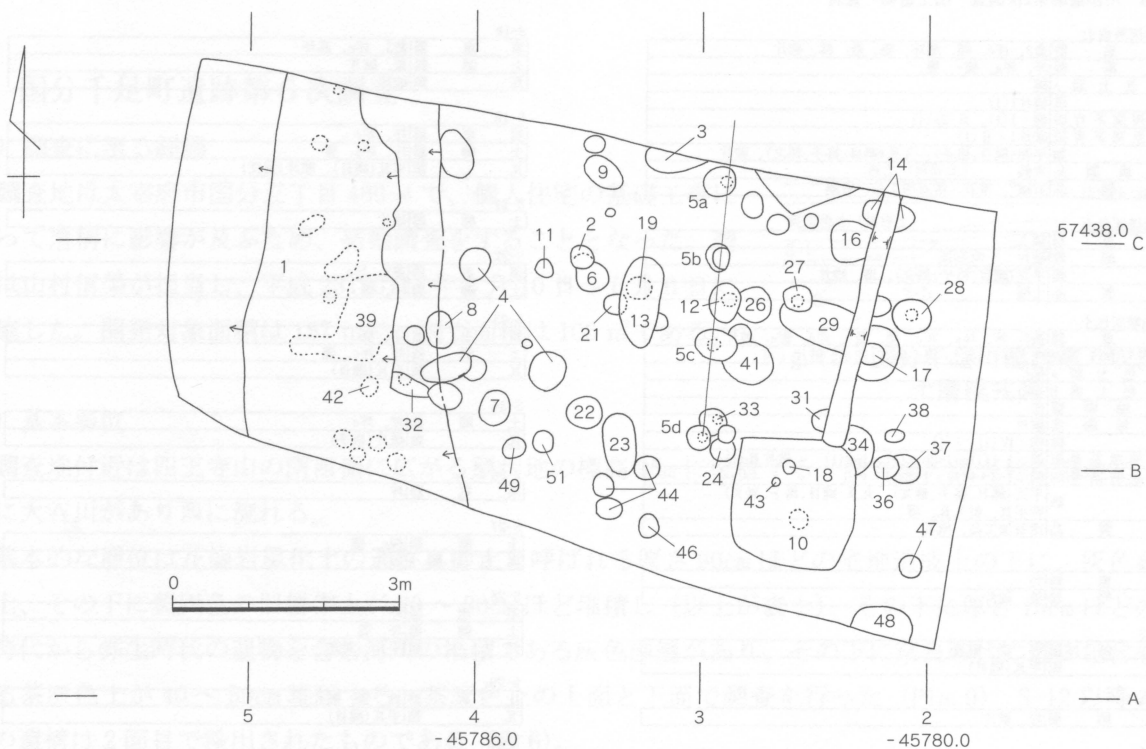


Fig. 15 川添遺跡第2次調査遺構略測図 (1/100)

表3 川添遺跡第2次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土ほか	時期	地区
1	2SX001	段落ち		12世紀中～後半	BC4
2		ピット			B3
3		土坑		古代	C3
4		ピット群			B3
5	2SA005	柵列		奈良～平安前期	BC2
6		ピット		奈良時代	B3
7	2SX007	ピット		奈良時代	B3
8		ピット	灰白色粘土		B4
9		ピット		古代	C3
10	2SK010	土坑	浅い	8世紀後半	A2
11		ピット	炭混じり	平安前期?	B3
12		ピット		古代	B2
13		土坑		奈良時代	B3
14		ピット			C2
16		ピット		奈良時代	C2
17		ピット		古代	B2
18		ピット		奈良後期	B2
19		ピット		奈良後期	B3
21		ピット	明灰色土		B3
22	2SX022	ピット		奈良後期	B3
23		ピット		奈良時代	B3
24		ピット			B2
26		ピット			B2
27	2SX027	ピット		平安前期	B2
28		ピット		古代	B2
29		土坑		古代	B2
30		ピット			B2
31		ピット			B4
32		ピット	炭混じり		B2
33		ピット	S-5の柵列のひとつの可能性あり。	奈良時代	B2
34		ピット			B2
36		ピット			B2
37		ピット			B2
38		ピット		平安時代	B2
39		ピット群	S-1の底面のピット		B4
41		ピット			B2
42		ピット			B4
43		ピット			A2
44		ピット群			A3
46		ピット			A3
47		ピット			A2
48	2SX048	ピット		奈良時代	A2
49		ピット		奈良時代	B3
51		ピット			B3

表4 川添遺跡第2次調査 出土遺物一覧表

S-1灰茶色土		
須	惠	器蓋3、坏c、碗、高坏、甕、壺、鉢、破片
土	師	器坏、坏a、碗c、甕
黒色土器A		碗
白		磁破片I(1)
越州窯系青磁		碗：I(1)、II-2a(1)
龍泉窯系青磁		破片I×II(1)
瓦	類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(縄目、格子、無文)、破片
金屬製品		宋銭
石	製品	石鏝?、滑石、滑石加工品、石鏝
S-1淡灰色土		
須	惠	器甕
土	師	器破片
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、埴、破片
土	製品	土壁
S-1暗灰色土		
須	惠	器蓋3、坏、坏a、坏c、甕、壺?、壺d、壺e、破片
土	師	器坏、坏a、碗c、甕、鉢?、把手、破片
黒色土器A		碗c
黒色土器B		碗c
灰釉陶器		壺
緑釉陶器		破片
白		磁碗：IV(1)、V(1)
越州窯系青磁		碗：I-1(1)、I-2b? (1)、I-2(1) 破片II(1)
龍泉窯系青磁		碗：I-2~6(1)、I-2(1)
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(縄目、格子、無文)
石	製品	軒平瓦、軒丸瓦、埴
滑石加工品		砥石
S-2		
須	惠	器坏
土	師	器甕、破片
S-3		
土	師	器坏、甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目)
S-4		
土	師	器坏、破片
S-5a		
土	師	器碗c、甕
S-5a掘り方		
須	惠	器甕
土	師	器破片
S-5b掘り方		
土	師	器破片
S-5c		
土	師	器甕
S-5c柱痕		
土	師	器甕
S-5c掘り方		
須	惠	器破片
土	師	器破片
S-5d柱痕		
須	惠	器蓋
土	師	器破片
S-5d掘り方		
土	師	器甕、破片
S-6		
須	惠	器甕
土	師	器坏、破片
S-7		
須	惠	器坏c
土	師	器碗c、甕、破片
S-8		
土	師	器甕、破片
S-9		
土	師	器甕、破片
瓦	類	丸瓦(無文)
S-10		
須	惠	器蓋c、蓋3、高坏
土	師	器甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目)
土	製品	土塊
S-11		
土	師	器坏a、碗c、破片
黒色土器A		破片
S-12		
土	師	器破片
瓦	類	平瓦(縄目)、瓦玉
S-13		
須	惠	器坏
土	師	器坏、甕、破片
瓦	類	平瓦
S-14		
土	師	器甕
瓦	類	破片(格子)
S-16		
須	惠	器坏a、破片
土	師	器坏、破片
S-17		
土	師	器甕
瓦	類	破片

S-18		
須	惠	器蓋3、坏c、高坏
土	師	器蓋、破片
瓦	類	破片
S-19		
須	惠	器坏、坏c
土	師	器坏、坏a、甕
瓦	類	平瓦(縄目)、破片(無文)
S-21		
土	師	器破片
S-22		
須	惠	器蓋3、坏c
土	師	器坏、甕
S-23		
須	惠	器坏、甕
土	師	器坏、坏c、甕
瓦	類	平瓦(縄目)
S-24		
土	師	器坏、坏c
瓦	類	破片(格子)
S-26		
須	惠	器坏
S-27		
土	師	器碗c、甕
黒色土器A		破片
S-28		
須	惠	器坏
土	師	器坏、甕
瓦	類	平瓦、丸瓦
S-29		
土	師	器碗、甕、破片
瓦	類	平瓦(縄目)
S-31		
土	師	器坏、破片
瓦	類	破片
S-32		
土	師	器破片
S-33		
須	惠	器甕
土	師	器坏、甕、破片
瓦	類	破片
S-34		
土	師	器破片
S-36		
須	惠	器蓋
土	師	器坏、甕、破片
黒色土器A		碗
S-37		
土	師	器坏、甕
瓦	類	破片
S-38		
土	師	器破片
瓦	類	平瓦(格子)、破片
S-39		
須	惠	器坏a、破片
土	師	器坏、碗c、甕
瓦	類	平瓦(縄目、格子)
S-41		
土	師	器破片
S-42		
土	師	器坏、破片
瓦	類	破片
S-43		
土	師	器坏
S-44		
土	師	器坏、甕
瓦	類	破片
S-46		
土	師	器坏、甕
その他		他灰
S-47		
土	師	器坏
S-48		
須	惠	器坏
土	師	器坏、坏a、甕
瓦	類	破片
S-49		
土	師	器坏、甕
瓦	類	平瓦
S-51		
土	師	器甕
瓦	類	破片
茶色土		
土	師	器坏a、坏c、碗、甕
瓦	類	破片(縄目)
表土		
須	惠	器蓋
瓦	類	平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(無文)、埴

3、国分千足町遺跡第6次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市国分三丁目 489-4 で、個人住宅の基礎工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は山村信榮が担当し、平成 23(2011)年 5 月 10 日～6 月 6 日に実施した。開発対象面積は 157 m²で、調査面積は 106 m²である。

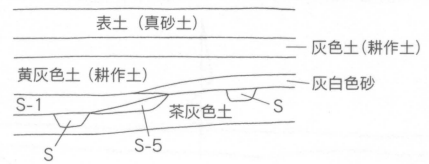


Fig. 16 国分千足町遺跡第6次調査土層模式図

(2) 基本層位

調査地付近は四王寺山の南西裾に広がる扇状地の標高 35m に位置する。調査前の調査地は宅地で、東側に大谷川があり西に流れる。

基本的な層位は花崗岩風化土の通称真砂土と呼ばれる厚さ 90cm ほどの宅地造成土の下に、灰色の耕作土、その下に黄灰色の旧耕作土が 20～30cm ほど堆積し(以上が表土)、その下に厚さ 15cm ほどの奈良時代から弥生時代の遺物を含む河川の堆積である灰色砂層があり、その下に奈良時代の遺物包含層である茶灰色土が 40～50cm 堆積する。茶灰色土の上面と下面で調査を行った(Pla. 9)。S-12 以降の番号の遺構は 2 面目で検出されたものである(表 6)。

(3) 検出遺構

柵列

6SA010 (Fig. 18)

3つのピット列で、検出長は 6.8m、柱間は 3.2m、方位は E-18° 26'-N を示す。柱穴 a には木質が残存していた。掘方の残りは浅く深さ 10cm 程度で、柱は土層断面から径 20cm 程度であったことが知られる。これより東側への延伸はない。茶灰色土下面の 2 面目で検出されたものである。

土坑

6SK008 (Fig. 18, Pla. 9)

南北 0.3m 以上、東西 1.3m、深さ 0.4m の東西に長い遺構である。埋土は炭が多く混じる灰色粘土の上に焼け土の混じる黄褐色土が覆う。床面などには被熱した痕跡は見られなかった。茶灰色土上面の 1 面目で検出されたものである。

溜まり状遺構

6SX001・005 (Fig. 18, Pla. 9)

調査区の北側に位置し、南北 1.2m、東西 6m、深さ 0.15m の不整形な楕円形を呈す浅い溜まり状の遺構である。掘り下げた過程で一段深くなった部分を SX005 としている。炭と焼土が混じる茶褐色の土壌が堆積し、炉壁、フイゴ羽口、銅鍋の鋳型などが出土している。銅製品の鋳造関連遺構で廃棄されたたまり状の遺構といえる。茶灰色土上面の 1 面目で検出されたものである。

6SX023 (Fig. 17)

調査区の東側に位置し、南北 1.8m、東西 0.5m、深さ 0.1m の長細い楕円形を呈す浅い溜まり状の遺構である。茶灰色土上面の 1 面目で検出されたものである。湧水があったことから掘り上がりは深くなってしまったが、掘方を持たず焼土混じりの茶灰色の土壌がレンズ状に堆積したような状態であり、その中から炉壁、フイゴ羽口、銅鍋の鋳型などが出土している。6SX001・005 に関連するたまり状の遺構といえる。

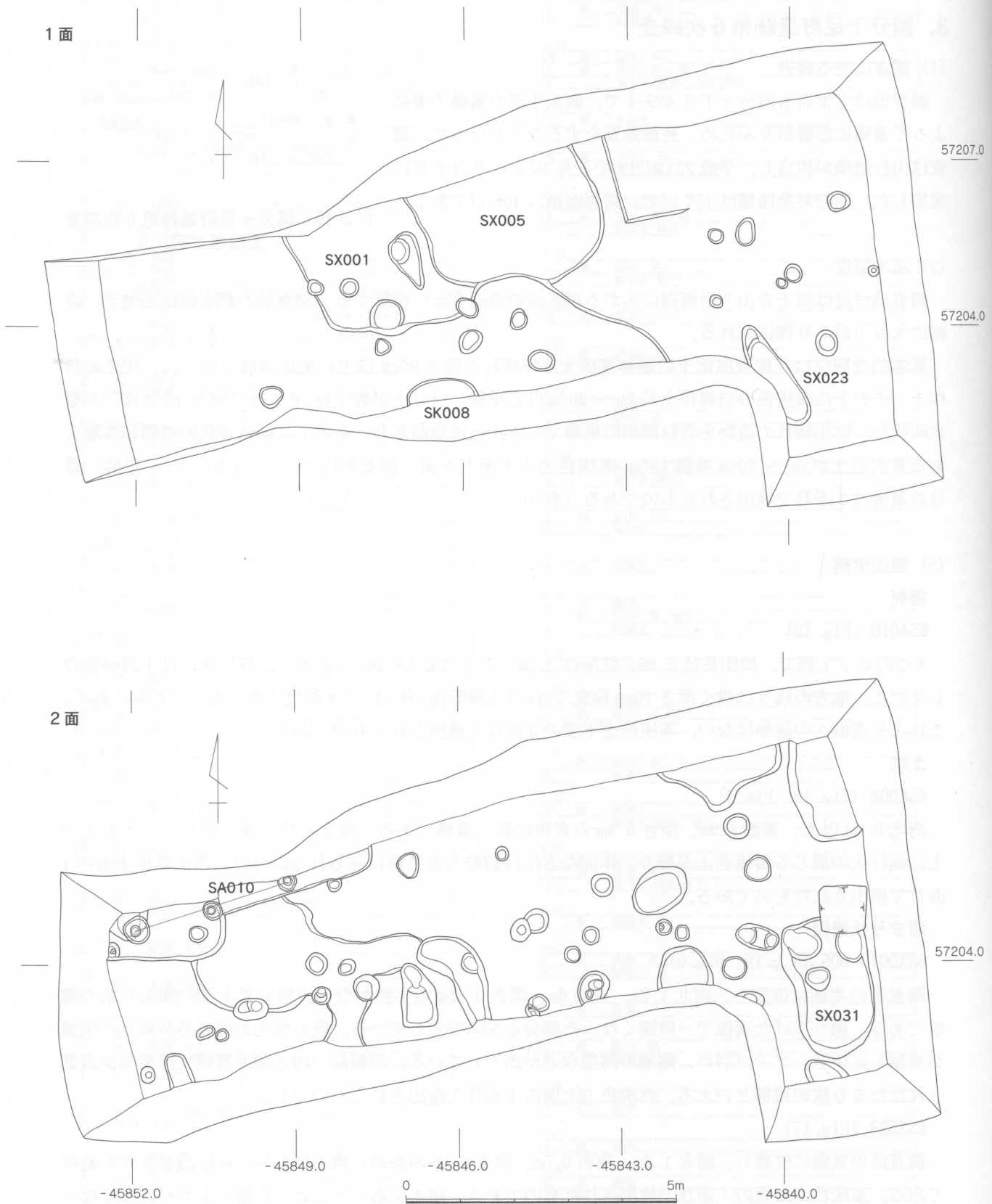


Fig. 17 国分千足町遺跡第6次調査遺構全体図 (1/100)

調査区北壁土層

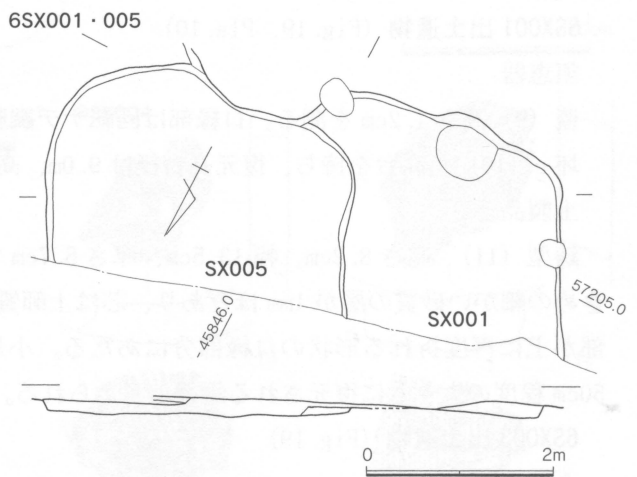
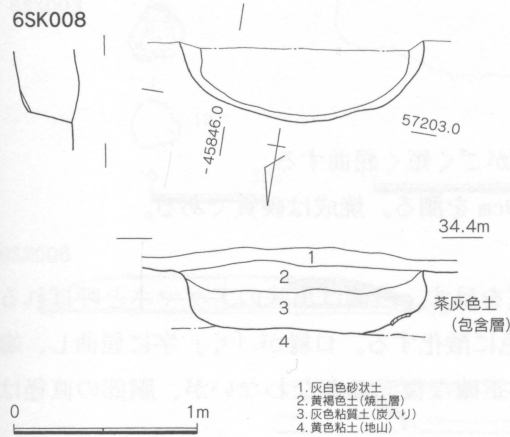
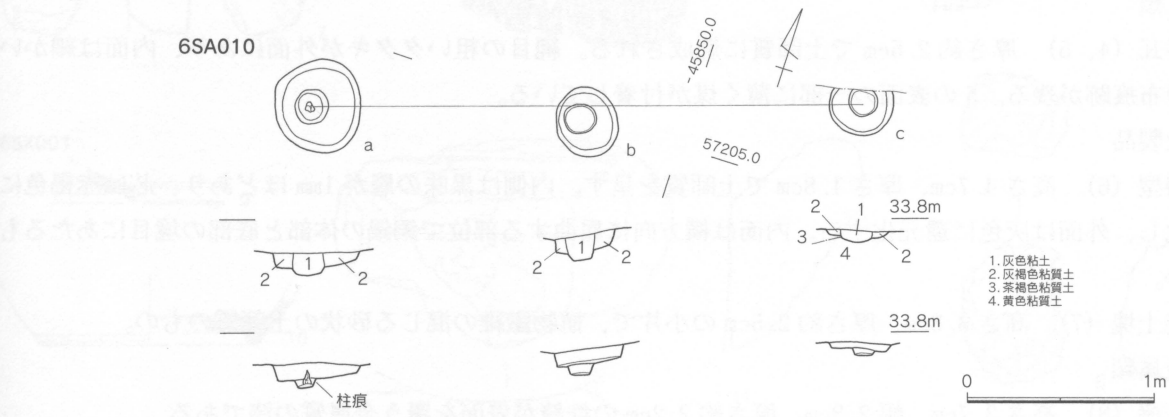
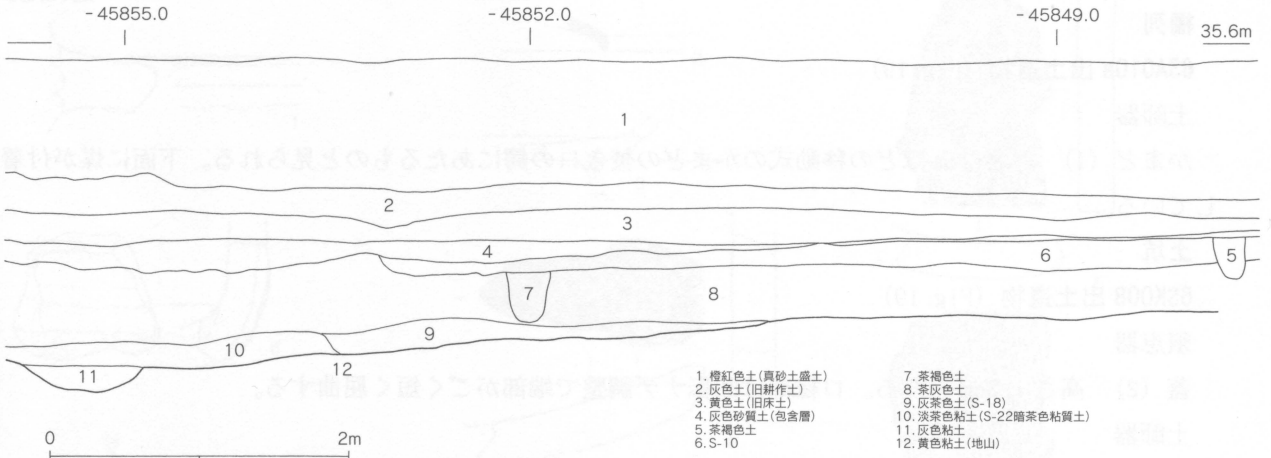


Fig. 18 国分千足町遺跡第6次調査土層及び遺構実測図 (1/40、1/50、1/80)

6SX031 (Fig. 17)

調査区の東側に位置し、南北 2.5m、東西 1.5m、深さ 0.15m の楕円形を呈す浅い溜まり状の遺構である。土坑のような掘方を持たず、茶褐色の土壌がレンズ状に堆積したような状態であり、その中から炉壁が出土している。鑄造関連遺構であろう。茶灰色土下面の 2 面目で検出されたものであり、包含層の上下両面で鑄造関連遺構があったことになる。

(4) 出土遺物

柵列

6SA010a 出土遺物 (Fig. 19)

土師器

かまど (1) 厚さ 2cm ほどの移動式のかまどの焚き口の鏝にあたるものと見られる。下面に煤が付着している。

土坑

6SK008 出土遺物 (Fig. 19)

須恵器

蓋 (2) 高さ 1.3cm を測る。口縁部は回転ナデ調整で端部がごく短く屈曲する。

土師器

坏 c (3) 高さ 1.6cm を測る。高台は欠損し、底部は平たく、体部とは角をもって屈曲する。

瓦類

平瓦 (4, 5) 厚さ約 2.5cm で土師質に焼成される。縄目の粗いタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。5 の表面の一部に薄く煤が付着している。

土製品

鋳型 (6) 高さ 4.7cm、厚さ 1.8cm で土師質を呈す。内側は黒味の層が 1mm ほどあり、芯は赤褐色に酸化し、外面は灰色に還元化する。内面は横方向に屈曲する部位で銅鍋の体部と底部の境目にあたるものか。

焼土塊 (7) 高さ 3.3cm、厚さ約 2.5cm の小片で、植物繊維の混じる砂状の土師質のもの。

金属類

鋳滓 (8) 高さ 3.7cm、幅 2.8cm、厚さ約 2.2cm の鉄錆が表面を覆う金属質の滓である。

その他の遺構

6SX001 出土遺物 (Fig. 19, Pla. 10)

須恵器

蓋 (9) 高さ 1.2cm を測る。口縁部は回転ナデ調整で端部がごく短く屈曲する。

坏 c (10) 角高台を持ち、復元高台径は 9.0cm、高さは 1.9cm を測る。焼成は硬質である。

土製品

鋳型 (11) 高さ 8.2cm、幅 13.5cm、厚さ 5.7cm で土師質を呈す。内側は黒味のアゲマネと呼ばれるきめの細かい砂質の層が 1mm ほどあり、芯は土師質で赤褐色に酸化する。口縁が「く」字に屈曲し、端部が上に再度折れる形状の口縁部分にあたる。小片のため正確な復元はかなわないが、胴部の直径は 50cm 程度の大きさに復元される銅鍋と考えられる。

6SX003 出土遺物 (Fig. 19)

金属類

鋳滓 (12) 高さ 1.5cm、幅 1.4cm、厚さ 1.3cm の鉄錆が表面を覆う金属質の滓である。

6SX004 出土遺物 (Fig. 19)

瓦類

平瓦 (13, 14) 厚さ約 2.7cm で 13 は瓦質、14 は須恵質に焼成される。縄目の粗いタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。13 には模骨の段らしきものが、14 には縦方向の幅 0.8mm ほどのナデの条線が残る。

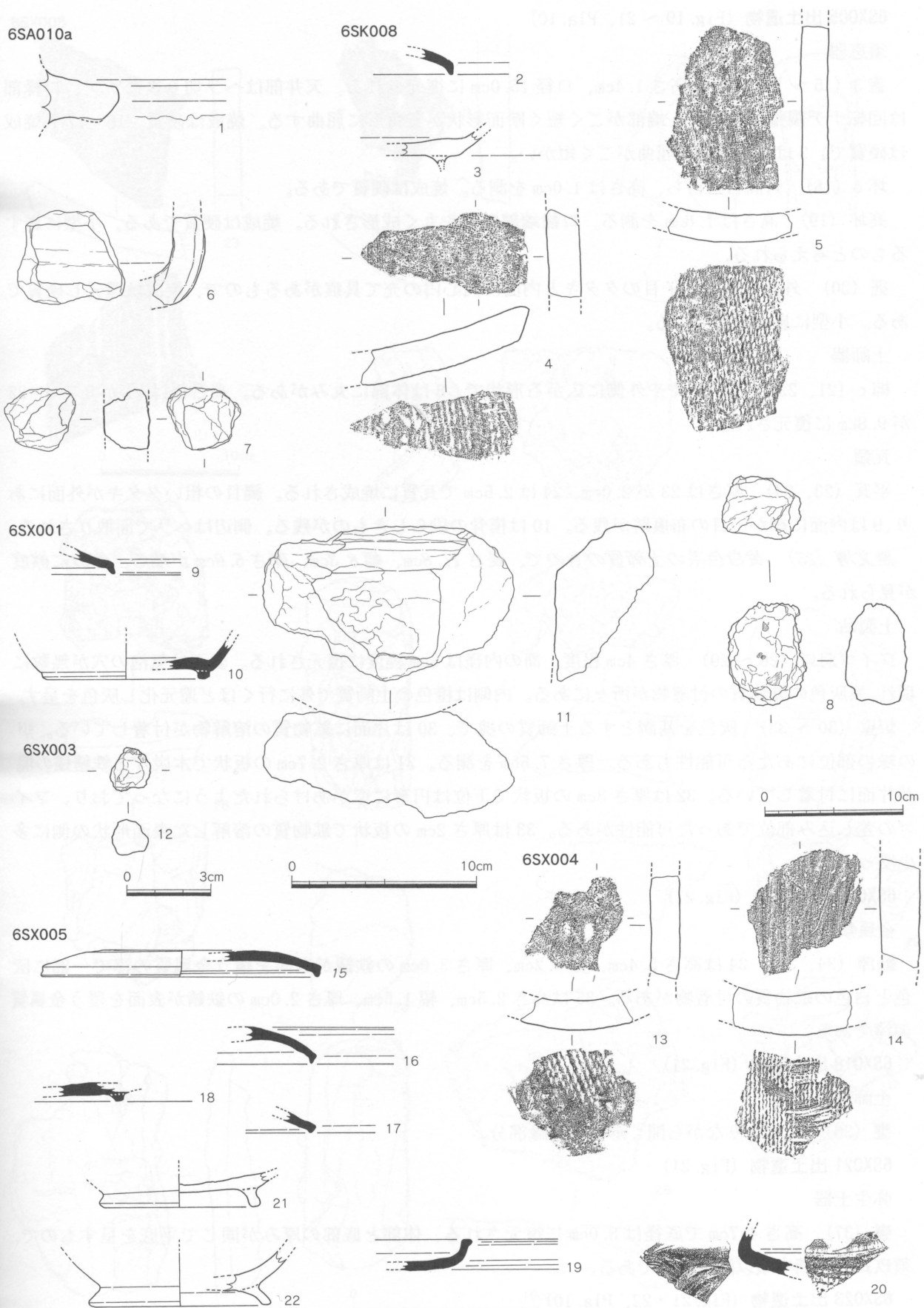


Fig. 19 国分千足町遺跡第6次調査出土遺物実測図① (1/2、1/3、1/4)

6SX005 出土遺物 (Fig. 19 ~ 21, Pla. 10)

須恵器

蓋 3 (15 ~ 17) 15 は高さ 1.4cm、口径 15.0cm に復元される。天井部はヘラ切り後にナデ、口縁部は回転ナデ調整が施され、端部がごく短く断面形状が三角形に屈曲する。焼成は硬質。16・17 も焼成は硬質で、3 は口縁端部の屈曲がごく短い。

坏 c (18) 角高台を持ち、高さは 1.0cm を測る。焼成は硬質である。

高坏 (19) 高さは 1.6cm を測る。口縁端部がやや丸く成形される。焼成は硬質である。小型に属するものと考えられる。

甕 (20) 外面に疑似格子目のタタキと内面に同心円の充て具痕があるもので、焼成は還元し硬質である。小型に属するものである。

土師器

椀 c (21, 22) 高台がやや外側に広がる形状で、8 は体部に丸みがある。高台径は 21 が 8.7cm、22 が 9.8cm に復元される。

瓦類

平瓦 (23, 24) 厚さは 23 が 2.0cm、24 は 2.5cm で瓦質に焼成される。縄目の粗いタタキが外面にあり、9 は内面に細かい目の布痕跡が残る。10 は模骨の段らしきものが残る。側辺はヘラで面取りされる。

無文埴 (25) 黄白色系の土師質のもので、長さ 11.8cm、幅 8.3cm、厚さ 5.9cm が残る。側辺に擦痕が見られる。

土製品

フイゴ羽口 (26 ~ 29) 厚さ 4cm 程度、筒の内径は 5cm 程度に復元される。表面は気泡の穴が無数に現れ、黒灰色の鉱物質の付着物が所々にある。内側は橙色の土師質で外に行くほど還元化し灰色を呈す。

炉壁 (30 ~ 33) 灰色を基調とする土師質の塊で、30 は片面に鉱物質の溶解物が付着している。炉の縁の部位にあたる可能性もある。厚さ 7.5cm を測る。31 は厚さ 2.7cm の板状で木炭片と鉄錆様の塊が片面に付着している。32 は厚さ 3cm の板状で下位は円形に窓がつけられたようになっており、フイゴの差し込み部位であった可能性がある。33 は厚さ 2cm の板状で鉱物質の溶解した表面形状の側に多少反っている。

6SX011 出土遺物 (Fig. 21)

金属類

鋳滓 (34, 35) 34 は高さ 5.4cm、幅 6.2cm、厚さ 3.0cm の鉄錆が表面を覆う金属質の滓で一部に灰色と白色の鉱物質の付着物がある。35 は高さ 2.5cm、幅 1.5cm、厚さ 2.0cm の鉄錆が表面を覆う金属質の滓である。

6SX018 出土遺物 (Fig. 21)

土師器

甕 (36) やや反りながら開く形状の口縁部分。

6SX021 出土遺物 (Fig. 21)

弥生土器

甕 (37) 高さ 4.7cm で底径は 8.0cm に復元される、体部と底部の厚みが同じで平底を呈すもので、須玖式の中期中頃以降の所産である。

6SX023 出土遺物 (Fig. 21・22, Pla. 10)

瓦類

6SX005

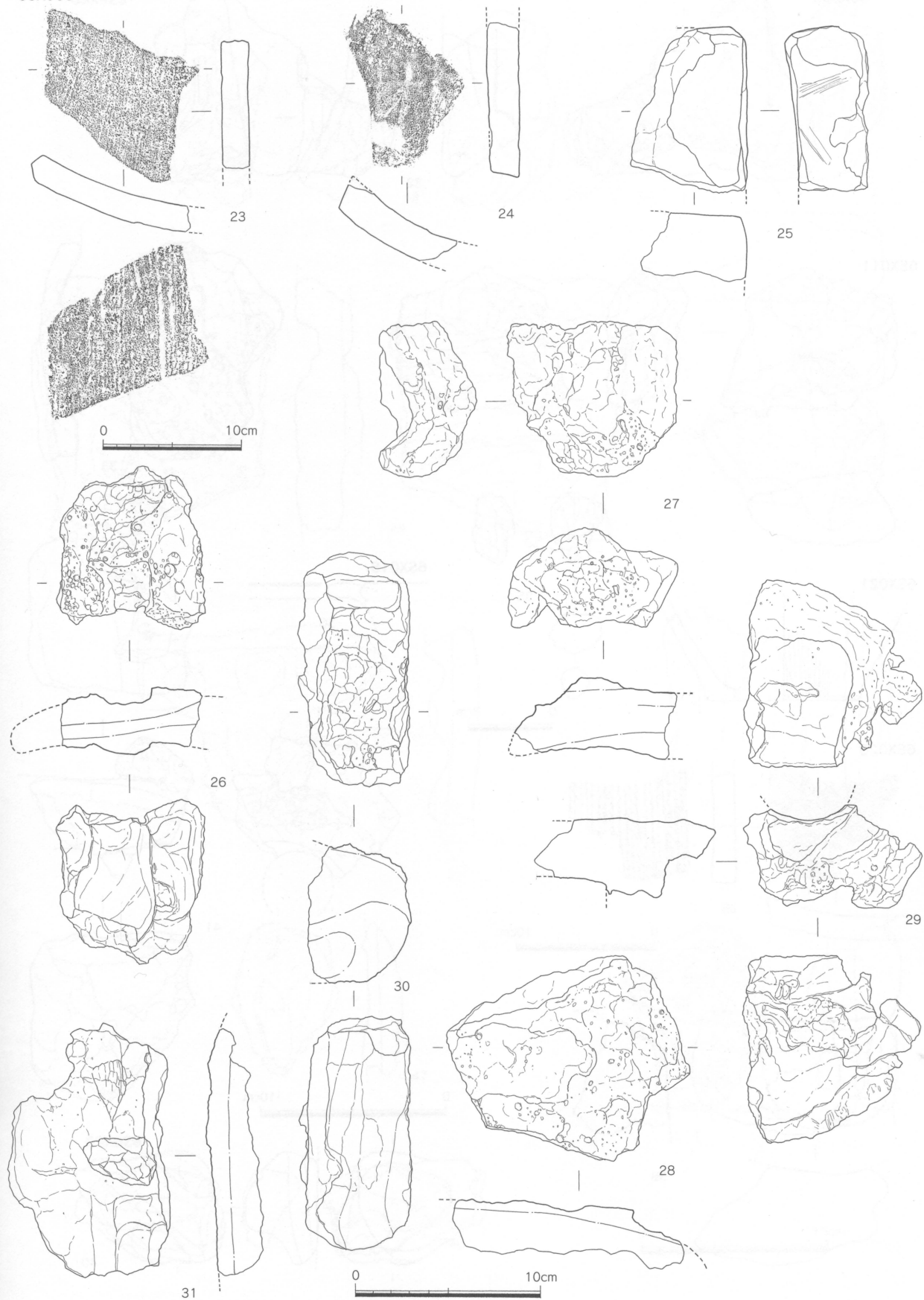


Fig. 20 国分千足町遺跡第6次調査出土遺物実測図② (1/3、1/4)

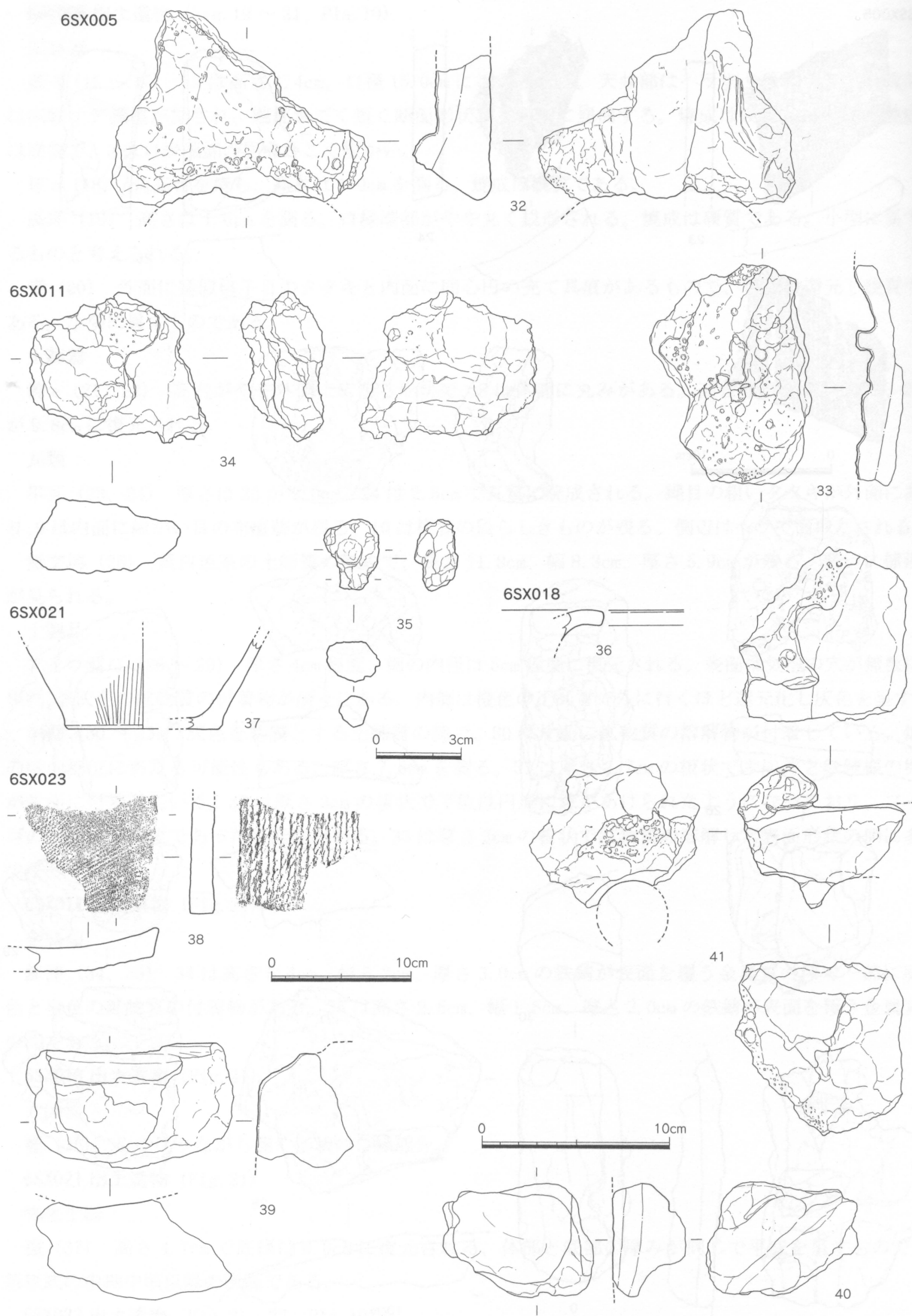
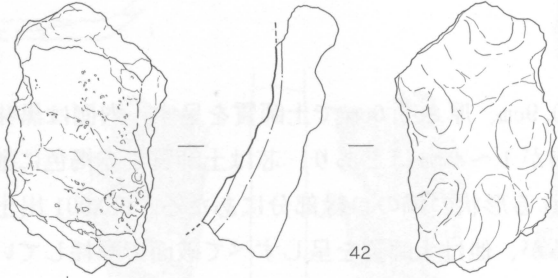
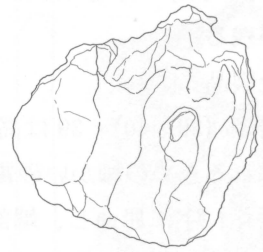


Fig. 21 国分千足町遺跡第6次調査出土遺物実測図③ (1/2、1/3、1/4)

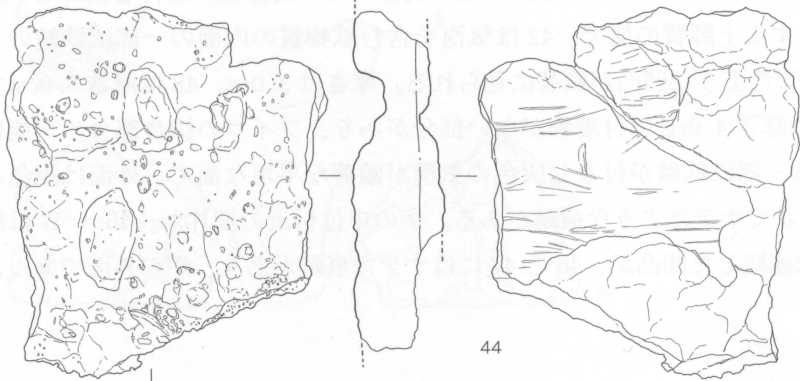
6SX023



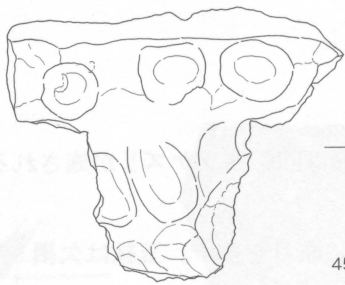
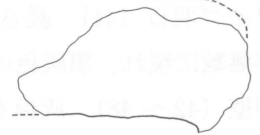
42



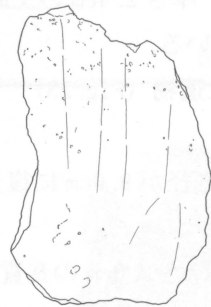
43



44



45



46



47



48



6SX028



49



Fig. 22 国分千足町遺跡第6次調査出土遺物実測図④ (1/3)

平瓦 (38) 厚さ 1.8cm で瓦質に焼成される。外面には縄目の粗いタタキがあり、内面に弓切りの痕跡が残る。

土製品

鋳型 (39、40) 39 は高さ 6.5cm、幅 10.9cm、厚さ 5.0cm で土師質を呈す。内側は黒味のアゲマネと呼ばれるきめの細かい砂質の灰色を呈す層が 1～2mm ほどあり、芯は土師質で赤褐色に酸化する。口縁が「く」字に屈曲し、端部が上に再度折れる形状の鍋の口縁部分にあたる。6SX001 出土例に似る。40 の片面に灰色を呈すアゲマネの部位が残るが、他は土師質を呈しすべて破面で摩耗している。

フイゴ羽口 (41) 長さ 8.9cm、厚さ 4cm 程度で、筒の内径は 4cm 程度に復元される。表面は気泡の穴が無数に現れ、黒灰色の鉍物質の付着物が所々にある。炉壁に刺さっていた部位には付着物がない。

炉壁 (42～48) 灰色を基調とする土師質の塊で、42 は気泡を含む鉍物質の内面の一部に鉄錆のような付着物がある。外面は指で押したような凹凸が顕著に見られる。厚さは 3.0cm。48 は厚さ 5.0cm で大きな鉄錆の塊が付着する。43 は厚さ 4.9cm で付着物がない部分があり、フイゴの接合部分の可能性もある。43 は厚さ 3.7cm で片面は一部に鉄錆が付着し灰色の気泡が顕著な平坦な面で、外面は黒色の土師質でスサが顕著に見られ、工具でナデたような痕跡がある。炉の中位付近の壁片か。45～47 は鉍物質の溶解物の付着はなく、45 は連続した凹凸が、46 と 47 にはナデた痕跡があり、炉の外面であった可能性がある。

6SX028 出土遺物 (Fig. 22)

土製品

鋳型 (49) 厚さ 2.4cm の土師質の塊で、一部に灰色を呈すアゲマネの部位が残るが、他はすべて破面で摩耗している。

6SX031 出土遺物 (Fig. 23)

土師器

坏 d (1) 底径が 9.0cm に復元され明橙色を呈す。体部外面は回転ヘラケズリが施される。

瓦類

丸瓦 (2) 厚さ 2.0cm の瓦質のもので、外面は縄目、内面に布目を残す。玉縁は欠損している。

平瓦 (3、4) 3 は厚さ 3.0cm、4 は 2.3cm で瓦質を呈す。外面は縄目、内面に布目を残す。側辺はヘラで成形している。4 の内面には弓切りの痕跡が見られる。

土製品

炉壁 (5) 厚さ 3.8cm で黒灰色を呈す土師質の板状を呈す。片面は鉍物質の被膜状に硬化している。

6SX032 出土遺物 (Fig. 23)

須恵器

坏 c (6) 底径が 10.0cm に復元され淡灰色を呈す。高台は四角く底部の外側に付けられる。

皿 (7) 高さ 2.0cm の若干外に反りながら広がる体部を持つ。

壺 a (8) 口径 6.8cm に復元される短頸壺で、色調は暗灰色を呈し、硬質である。

高坏 b (9) 口径 20.4cm に復元され、色調は淡灰色を呈し、硬質である。底部外面は回転ヘラケズリを施す。

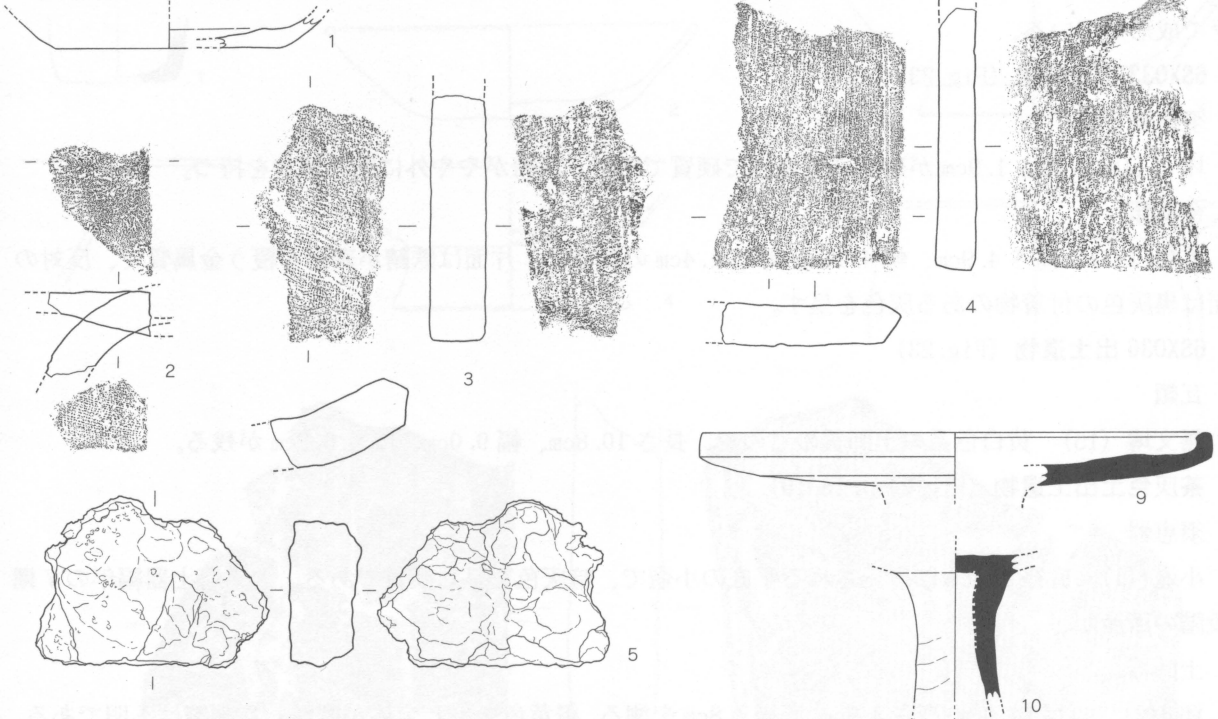
高坏 (10) 高さ 5.9cm が残る。色調は淡灰色を呈し、硬質である。

土師器

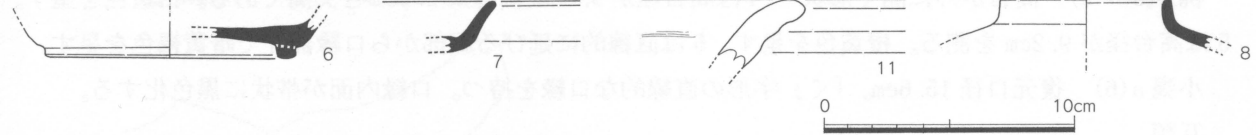
甕 (11) 端部が短く開く口縁片である。鉢の可能性もある。

瓦類

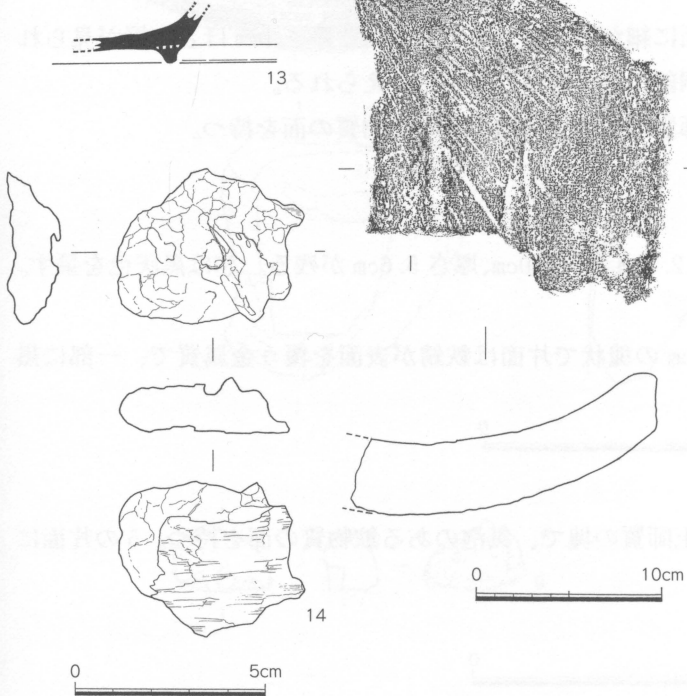
6SX031



6SX032



6SX033



6SX036

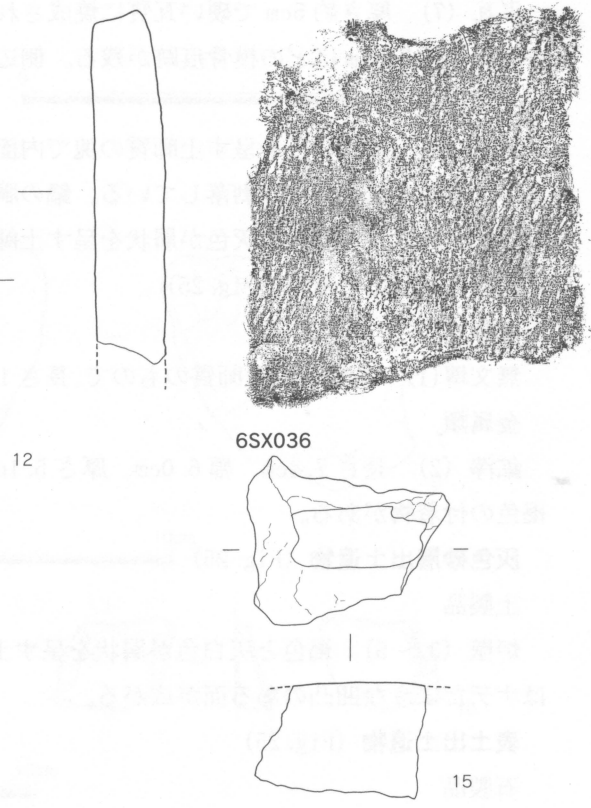


Fig. 23 国分千足町遺跡第6次調査出土遺物実測図⑤ (1/2、1/3、1/4)

平瓦 (12) 厚さ 4.0cm で硬い瓦質を呈す。外面は縄目、内面に布目と弓切り痕跡を残す。側辺はヘラで成形している。

6SX033 出土遺物 (Fig. 23)

須恵器

坏 c (13) 高さ 1.9cm が残り、灰白色で硬質である。高台がやや外に開く形状を持つ。

金属類

鋳滓 (14) 高さ 4.9cm、幅 4.1cm、厚さ 1.4cm の板状で、片面は鉄錆が表面を覆う金属質で、反対の面は黒灰色の付着物のある灰色を呈す。

6SX036 出土遺物 (Fig. 23)

瓦類

無文埴 (15) 黄白色系の土師質のもので、長さ 10.8cm、幅 9.0cm、厚さ 6.2cm が残る。

茶灰色土出土遺物 (Fig. 24、Pla. 10)

須恵器

小壺 (1) 底径 4.6cm に復元される平底の小壺で、暗灰色を呈し硬質である。大宰府土器編年の V 期段階の所産か。

土師器

坏 d (2) 口径 14.9cm、高さ 3.9cm、底径 7.8cm を測る。橙黄色を呈し全体が摩耗して調整は不明である。

碗 c (3 ~ 5) 高台が外に開く形状で、4 は高台径が 9.6cm、高さが 2.6cm と丈高である。白黄色を呈す。5 は高台径が 9.2cm を測る。橙黄色を呈す。5 は直線的に延びる胴部から口縁部片で暗黄褐色を呈す。

小甕 a (6) 復元口径 15.6cm。「く」字形の直線的な口縁を持つ。口縁内面が帯状に黒色化する。

瓦類

平瓦 (7) 厚さ約 5cm で硬い瓦質に焼成される。縄目の粗いタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡と幅 3.5cm ほどの模骨痕跡が残る。側辺と小口には粗い工具の条線が残される。

土製品

鋳型 (8) 淡黄白色を呈す土師質の塊で内面に細かな砂のマネと呼ばれる厚さ 1mm ほどの層が見られるが、表面のほとんどは剥落している。鍋の胴部から口縁部の部位と考えられる。

炉壁 (9、10) 橙色と灰色が層状を呈す土師質の塊で、気泡のある鋳物質の面を持つ。

灰白色砂層出土遺物 (Fig. 25)

瓦類

無文埴 (1) 黄橙色の土師質のもので、長さ 12.5cm、幅 11.0cm、厚さ 5.0cm が残る。芯は黒灰色を呈す。

金属類

褐色の付着物がある。

灰色砂層出土遺物 (Fig. 25)

土製品

炉壁 (3 ~ 5) 褐色と灰白色が層状を呈す土師質の塊で、気泡のある鋳物質の面を持つ。5 の片面にはナデたような凹凸のある面が広がる。

表土出土遺物 (Fig. 25)

石製品

剥片 (6) 黒曜石の原石の表皮を片面に残す縦長剥片で、長さ 4.5cm、幅 2.3cm、厚さ 1.2cm を測る。

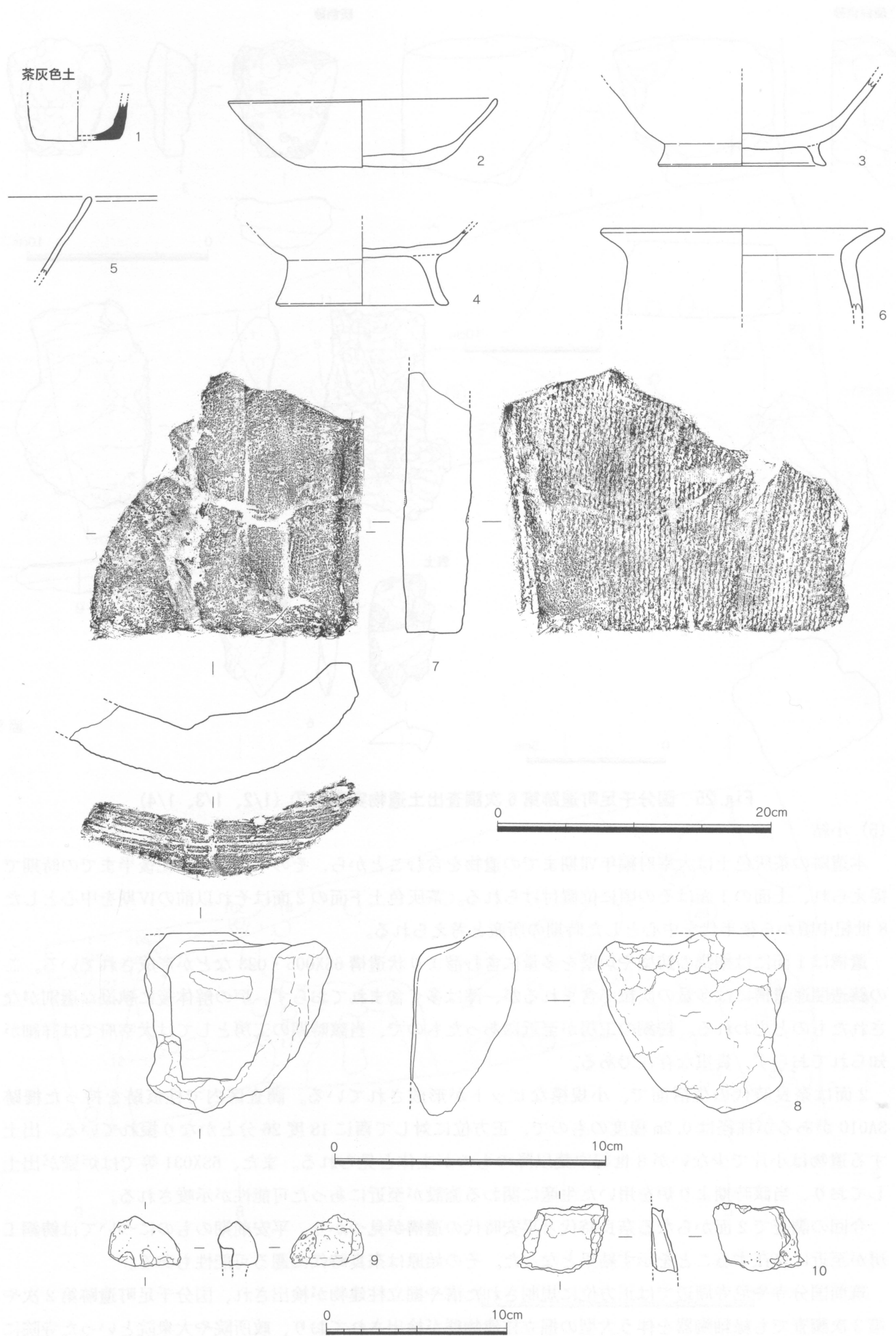


Fig. 24 国分千足町遺跡第6次調査出土遺物実測図⑥ (1/2、1/3、1/4)

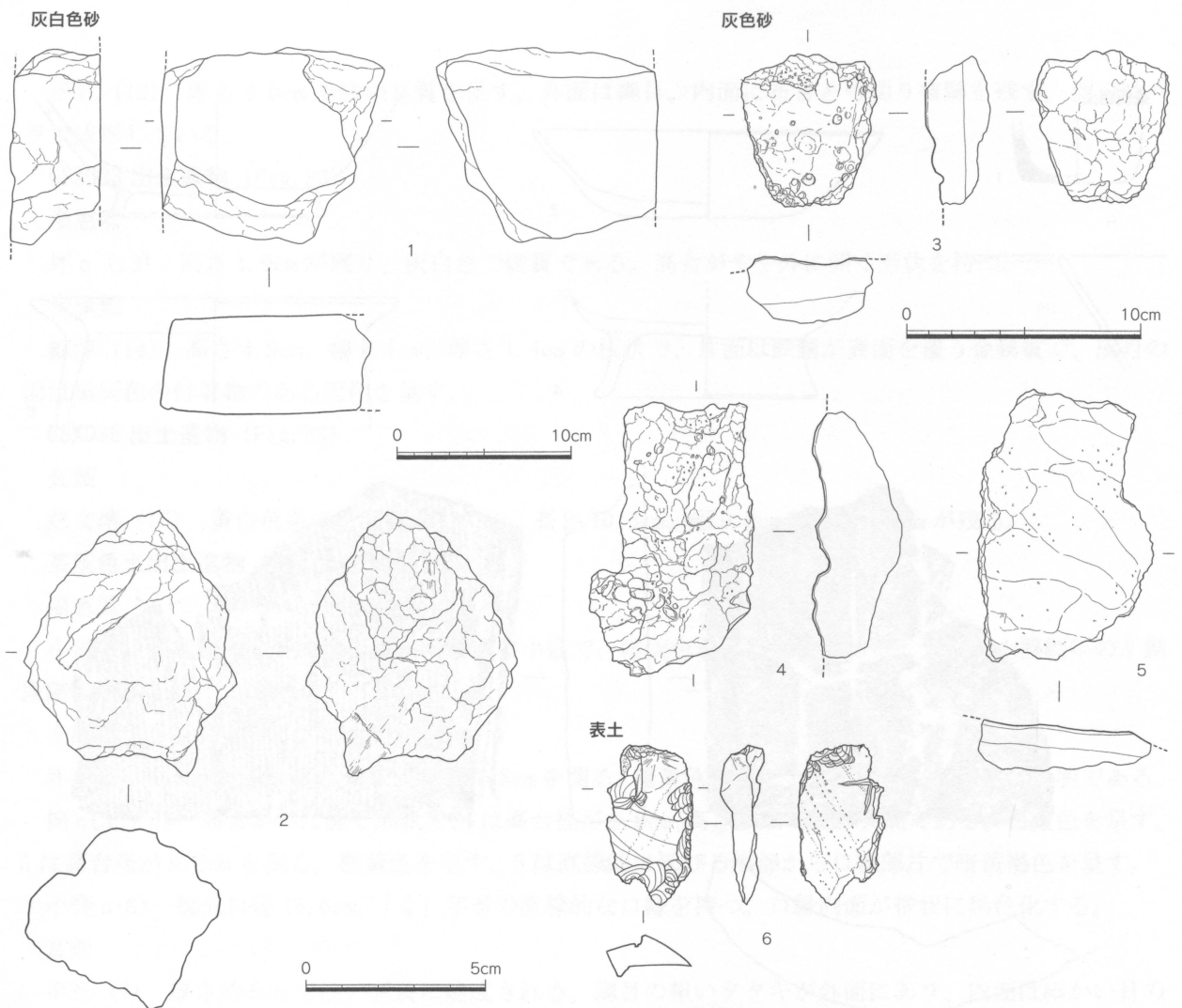


Fig. 25 国分千足町遺跡第6次調査出土遺物実測図⑦ (1/2、1/3、1/4)

(5) 小結

本遺跡の茶灰色土は大宰府編年Ⅶ期までの遺物を含むことから、その下限は9世紀後半までの時期で捉えられ、上面の1面はその頃に位置付けられる。茶灰色土下面の2面はそれ以前のⅣ期を中心とした8世紀中頃から後半代を中心とした時期の所産と考えられる。

遺構は1面には銅鍋の鋳型や炉壁を多量に含む溜まり状遺構 6SX005・023 などが形成されている。この鋳造関連遺構には多量の炭粒が含まれるが、滓は多く含まれておらず、炉の解体後に執拗な選別がなされたものと思われる。鋳銅の工房が至近にあったもので、当該時期の工房としては大宰府では詳細が知られておらず、貴重な存在である。

2面は奈良時代の生活面で、小規模なピットが形成されている。調査区内で柱痕跡を持った柵跡 SA010 があるが柱径は0.2m程度のもので、正方位に対して西に18度26分とかなり振れている。出土する遺物は小片で少ないが8世紀中葉以降のものが主体と見られる。また、6SX031 等では炉壁が出土しており、当該時期より炉を用いた生産に関わる施設が至近にあった可能性が示唆される。

今回の調査で2面からなる奈良時代と平安時代の遺構が見つかり、平安前期のものについては鋳銅工房が至近に存在することを示す結果となった。その始原は奈良時代に遡る可能性もある。

筑前国分寺や尼寺周辺では正方位に規制された溝や掘立柱建物が検出され、国分千足町遺跡第2次や第3次調査でも緑釉陶器を伴う大型の掘立柱建物群が検出されており、政所院や大衆院といった寺院に付帯する関連施設が展開している可能性を示しており、今回調査した遺跡もその関連で理解することができる可能性がある。

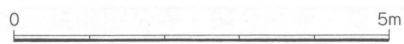
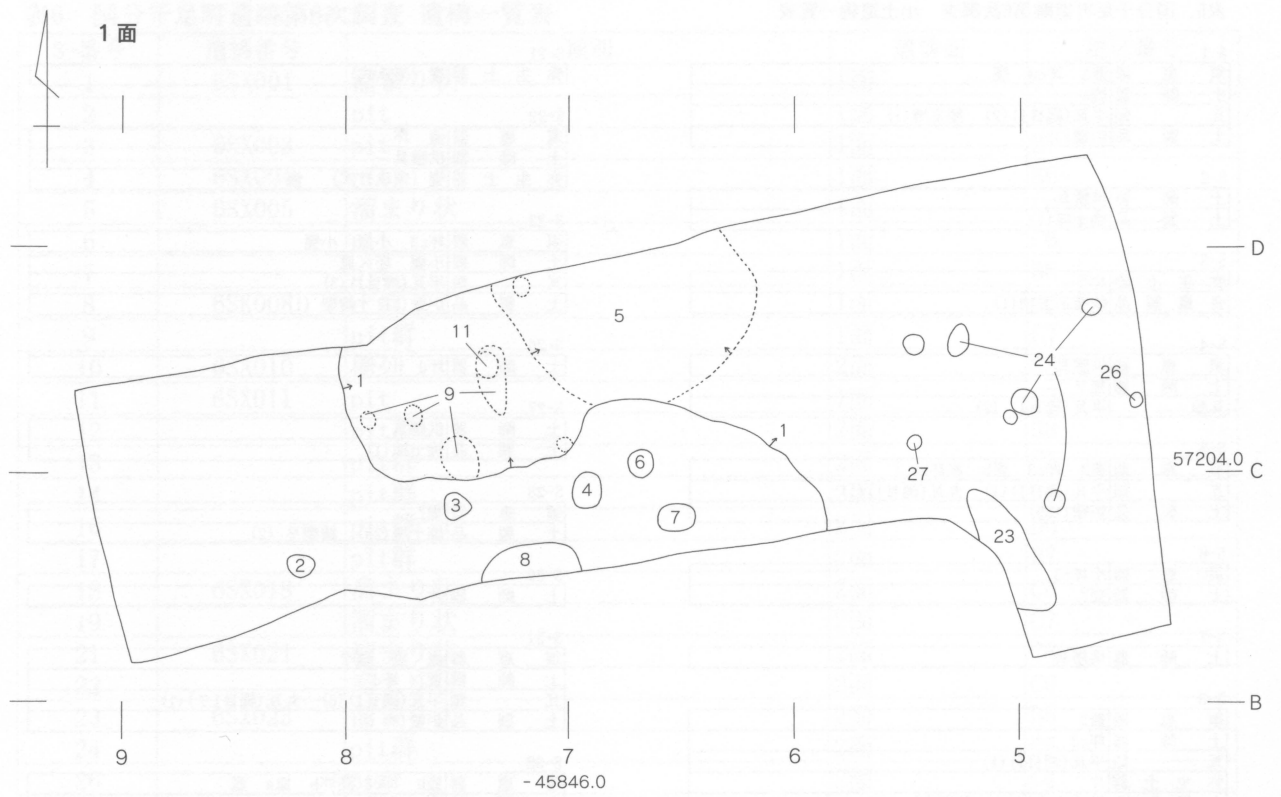


Fig. 26 国分千足町遺跡第6次調査遺構略測図 (1/100)

表5、国分千足町遺跡第6次調査 出土遺物一覽表

S-1			
須	惠	器	蓋3 坏c3 甕
土	師	器	碗c
瓦		類	平瓦(縄目I)(2) 無文埴(1)
土	製	品	炉壁(32)
S-2			
土	師	器	供膳具
土	製	品	焼土塊(1)
S-3			
弥	生	土	器片?
金	属	製	品 鉄塊系遺物(1)
S-4			
須	惠	器	供膳具
土	師	器	甕?
瓦	類		平瓦(縄目I)(2)
S-5			
須	惠	器	蓋3 坏c3 壺b 高坏b2
瓦		類	平瓦(縄目I)(1) 丸瓦(縄目I)(1)
土	製	品	炉壁(185)
S-6			
須	惠	器	小坏c3
土	師	器	甕?
S-7			
土	師	器	供膳具
S-8			
須	惠	器	蓋3
土	師	器	坏c3
瓦		類	平瓦(縄目I)(1)
弥	生	土	器片
金	属	製	品 鉄塊系遺物(1) 铸型(2)
土	製	品	焼土塊(3)
S-9			
須	惠	器	片
土	師	器	片
瓦		類	平瓦(無文)(1)
弥	生	土	器甕?
土	製	品	炉壁(2)
S-10a			
須	惠	器	甕
土	師	器	カマド(鏝)
S-11			
土	師	器	片
瓦		類	丸瓦?
金	属	製	品 鉄塊系遺物(2)
土	製	品	炉壁(1)
S-12			
須	惠	器	坏c3 坏
土	師	器	甕
S-13			
須	惠	器	蓋c
土	師	器	片
S-14			
須	惠	器	坏c3 甕
土	師	器	甕
S-16			
土	師	器	片
弥	生	土	器甕?
S-17			
須	惠	器	甕
土	師	器	片
弥	生	土	器片
S-18			
弥	生	土	器甕
S-19			
須	惠	器	坏
土	師	器	甕 供膳具

S-21			
弥	生	土	器甕(須玖式)
S-22			
須	惠	器	蓋 坏
土	師	器	供膳具
弥	生	土	器甕(須玖Ⅱ式) 壺
S-23			
須	惠	器	坏c3 小壺 小甕
土	師	器	小甕 坏×皿
瓦		類	平瓦(縄目I)(3)
土	製	品	炉壁(51) 铸型(1)
S-26			
土	師	器	坏d
S-27			
土	師	器	供膳具
土	製	品	焼土塊(1)
S-28			
須	惠	器	甕?
土	製	品	焼土塊(28) 铸型?(2)
S-29			
土	師	器	片
S-31			
須	惠	器	壺 甕 蓋?
土	師	器	甕? 坏d
瓦		類	平瓦(縄目I)(6) 丸瓦(縄目I?)(1)
土	製	品	炉壁(8)
S-32			
須	惠	器	壺b 坏c3 高坏b 皿a 壺
土	師	器	甕 高坏b
瓦		類	平瓦(縄目I)(1)
S-33			
須	惠	器	坏c3
土	製	品	炉壁(3)
S-34			
土	師	器	片
S-36			
須	惠	器	壺?
土	師	器	供膳具
瓦		類	平瓦(縄目I)(1) 無文埴(1)
S-32			
須	惠	器	壺b 坏c3 高坏b 皿a 壺
土	師	器	甕 高坏b
瓦		類	平瓦(縄目I)(1)
茶灰色土			
須	惠	器	坏c3 甕 蓋3 蓋c 小壺
土	師	器	小甕a 碗c 坏d
瓦		類	平瓦(縄目I)(2) 平瓦(無文)(1)
土	製	品	炉壁(9)
灰色砂			
土	製	品	炉壁(18)
灰白色砂			
須	惠	器	坏c3 甕 蓋3
瓦		類	平瓦(無文)(2) 無文埴(1)
石		器	ob-f(1)
金	属	製	品 鉄塊系遺物(1)
土	製	品	炉壁(9)
表土			
須	惠	器	坏 皿a
土	師	器	碗c
瓦		類	平瓦(縄目I)(1) 平瓦(無文)(1)
弥	生	土	器片
土	製	品	炉壁(1)

表6 国分千足町遺跡第6次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	遺構面	地区番号
1	6SX001	溜まり状	1面	C7
2		pit	1面	B8
3	6SX003	pit	1面	B7
4	6SX004	pit	1面	B6
5	6SX005	溜まり状	1面	C6
6		pit	1面	C6
7		pit	1面	B6
8	6SK008	土坑	1面	B7
9		pit群	1面	C7
10	6SA010	柵列	2面	C8
11	6SX011	pit	1面	C7
12		pit群	2面	B8
13		pit群	2面	C5
14		pit群	2面	C6
16		pit群	2面	B6
17		pit群	2面	B7
18	6SX018	溜まり状	2面	C8
19		溜まり状	2面	C7
21	6SX021	溜まり状	2面	C8
22		溜まり状	2面	C9
23	6SX023	溜まり状	2面	B5
24		pit群	2面	C5
26		pit	2面	C4
27		pit	2面	C5
28	6SX028	pit	2面	C5
29		pit	2面	C5
31	6SX031	溜まり状	2面	B4
32	6SX032	溜まり状	2面	D4
33	6SX033	溜まり状	2面	D5
34		pit	2面	C5
36	6SX036	pit群	2面	C4

V、調査まとめ

今回の調査地でわかったことは以下の通りである。

- ・南北方向の柵列や段落ちの検出（川添遺跡第2次調査）
- ・鑄造関連遺構や遺物の検出（国分千足町遺跡第6次調査）

調査地周辺の調査例は多くはないものの、御笠団印出土地周辺遺跡第7・9・10次調査では、7世紀後半から平安前期にかけて大規模な整地や遺構の展開がみられる。大宰府条坊の北端丘陵上で行った大宰府条坊跡第190次調査では8世紀代の大型掘立柱建物が7棟みつき、調査地近くの国分千足町遺跡第3次調査では、奈良時代とみられる大型の掘立柱建物も確認されている。

今回の調査地を含む筑前国分寺と大宰府条坊とのおよそ500m四方の空間には、奈良時代を中心とした遺構が広がっている。この大宰府官衙域の北西地域は、筑前国分寺・国分尼寺・苅萱関などがあり、古代大宰府にとって重要な施設が多い。このような立地条件から考えると、今回報告した遺構は、筑前国分寺もしくは大宰府に関連した遺構の一部の可能性が高い。

写真図版

松島遺跡第1次調査全景（北から）

松島遺跡第1次調査全景（東から）



松倉遺跡第1次調査全景（北から）



松倉遺跡第1次調査全景（東から）



1SA005a 検出状況（北から）



1SA005b 検出状況（北から）



1SA005c 検出状況（北から）



松倉遺跡第1次調査 1SX004 完掘状況（北から）



川添遺跡第2次調査完掘状況（東から）



川添遺跡第2次調査南側完掘状況（西から）

(34西) 発掘調査記録 川添遺跡 2004.8.8



川添遺跡第2次調査 SA005 検出状況（南から）



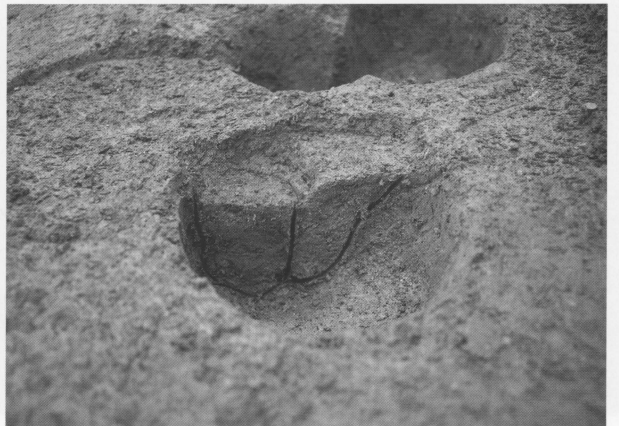
2SA005a 土層状況（西から）



2SA005b 土層状況（西から）



2SA005c 土層状況（西から）



2SA005d 土層状況（西から）



川添遺跡第2次調査 SX001 完掘状況（南東から）



川添遺跡第2次調査 SX001 土層堆積状況（南から）



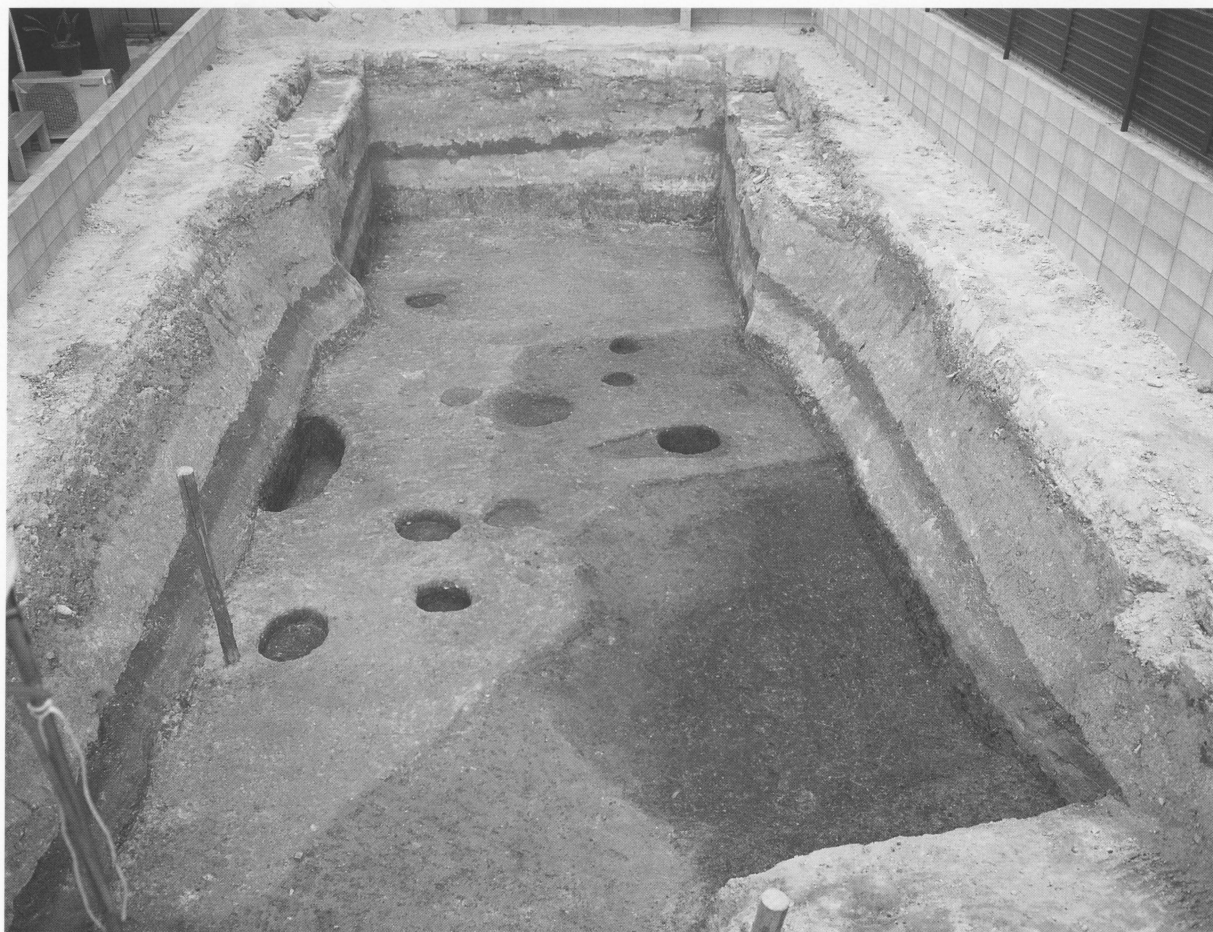
国分千足町遺跡第6次調査区全景（東から）



国分千足町遺跡第6次調査区全景（下が北）

ZSA005a 土層状況（西から）

ZSA005b 土層状況（西から）



国分千足町遺跡第6次調査1面西側完掘状況（東から）



国分千足町遺跡第6次調査1面東側完掘状況（南から）



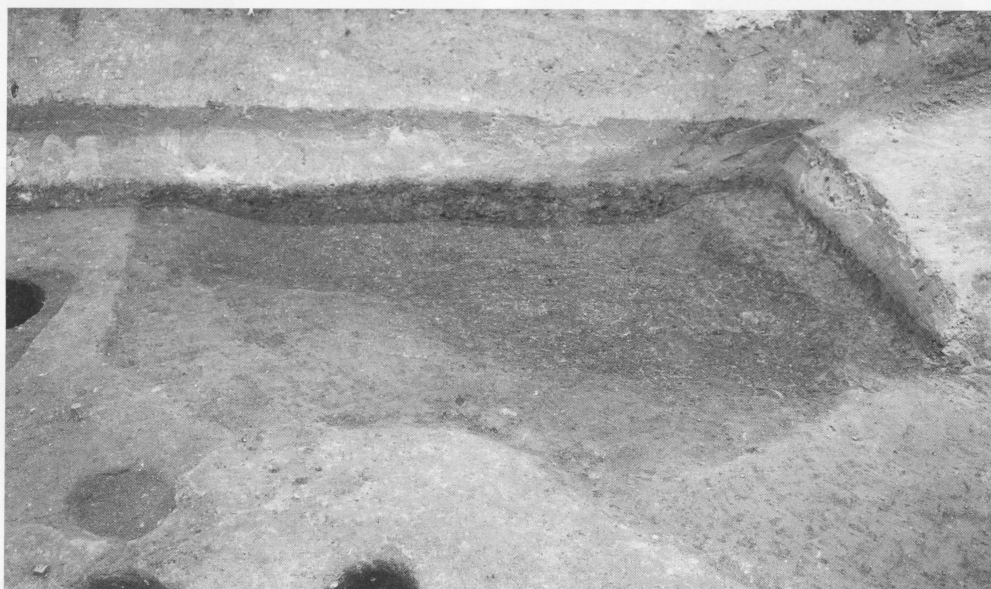
国分千足町遺跡第6次調査2面東側完掘状況（東から）



国分千足町遺跡第6次調査2面東側完掘状況（南から）



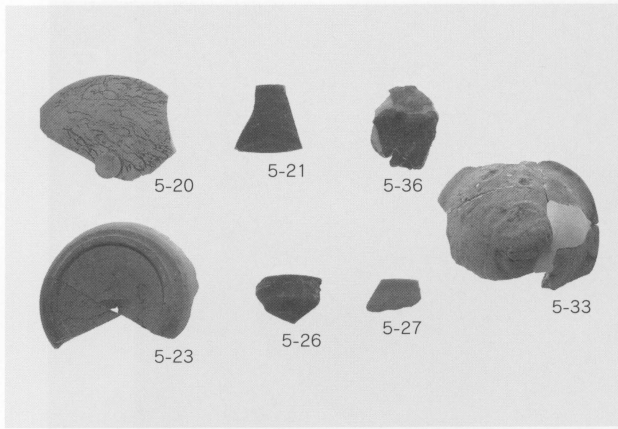
6SK008 完掘状況（北から）



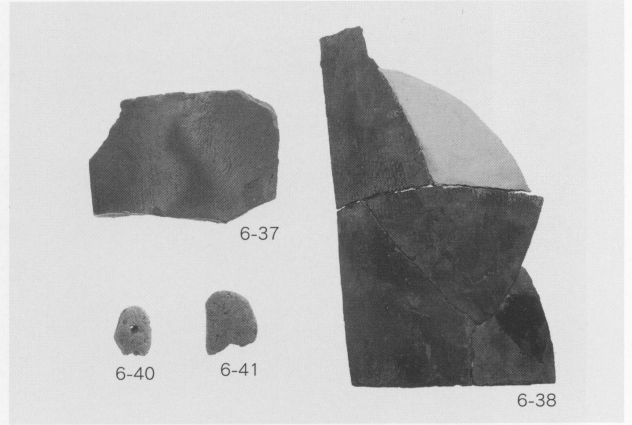
6SX005 完掘状況（南から）



国分千足町遺跡第6次調査調査区北壁土層（南から）



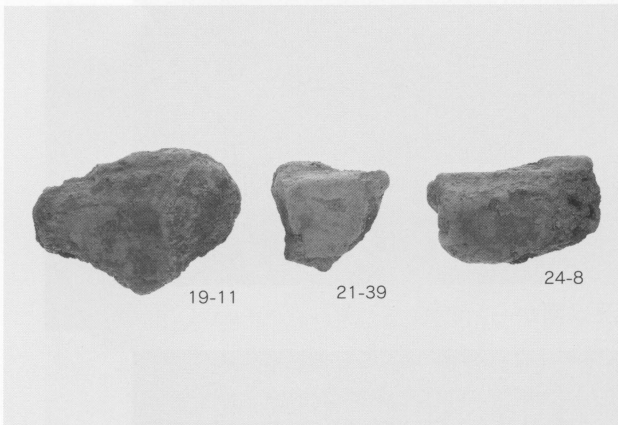
松倉遺跡第1次 SX004 出土遺物 (Fig. 5)



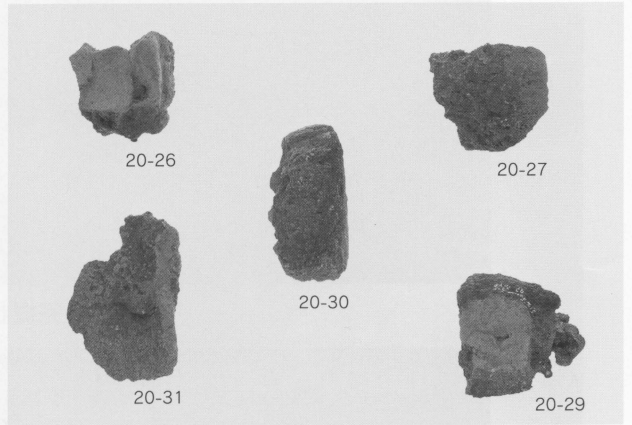
松倉遺跡第1次 SX004 出土遺物 (Fig. 6)



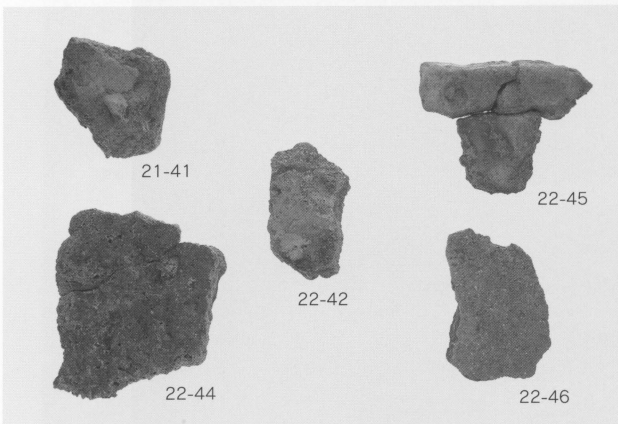
松倉遺跡第1次黒灰色シルト出土土器 (Fig. 7-52)



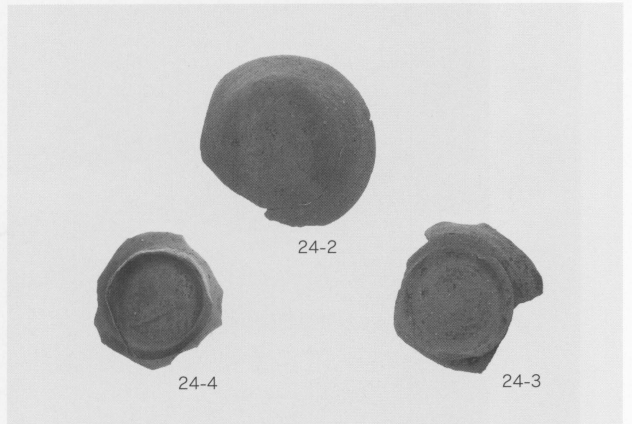
国分千足町遺跡第6次出土鋳型 (Fig. 19・21・24)



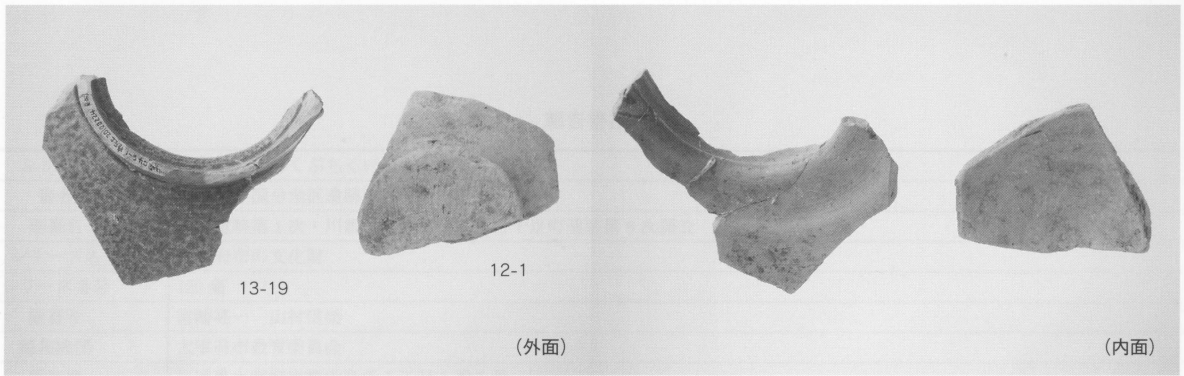
国分千足町遺跡第6次 SX005 出土鋳滓 (Fig. 20)



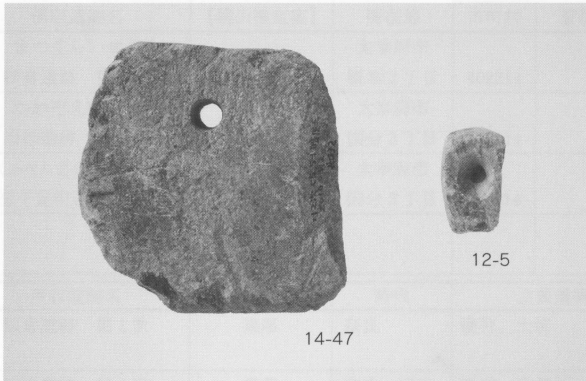
国分千足町遺跡第6次 SX023 出土炉壁 (Fig. 21-22)



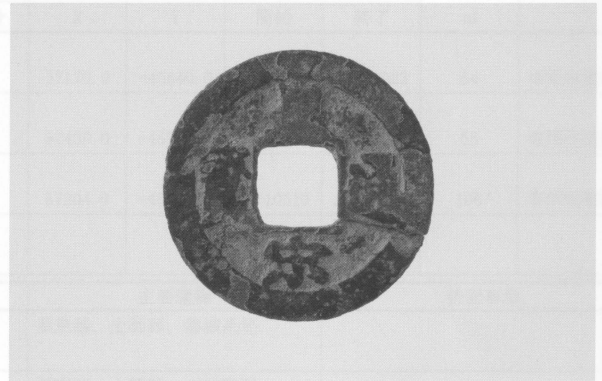
国分千足町遺跡第6次茶灰色土出土土器 (Fig. 24)



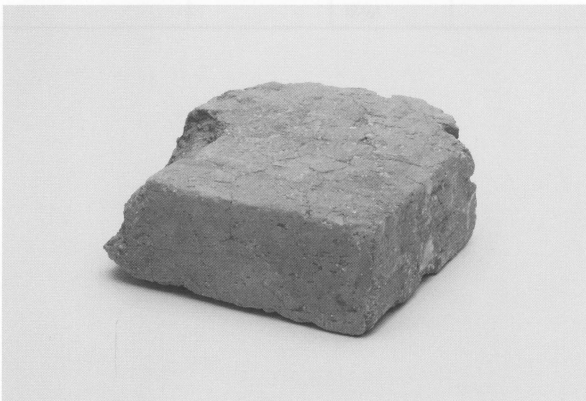
川添遺跡第2次 SX001 出土土器 (Fig. 12・13)



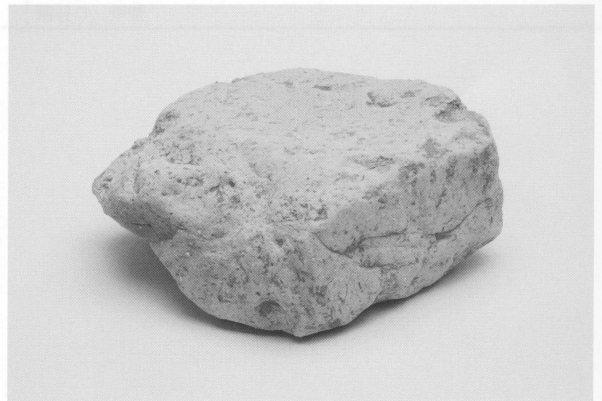
川添遺跡第2次 SX001 出土滑石加工品 (Fig. 12・14)



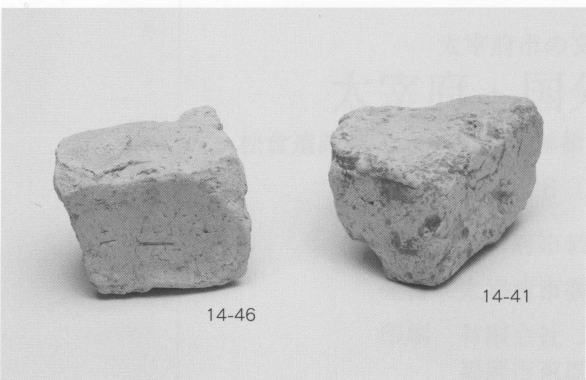
川添遺跡第2次 SX001 出土宋錢 (Fig. 12-7)



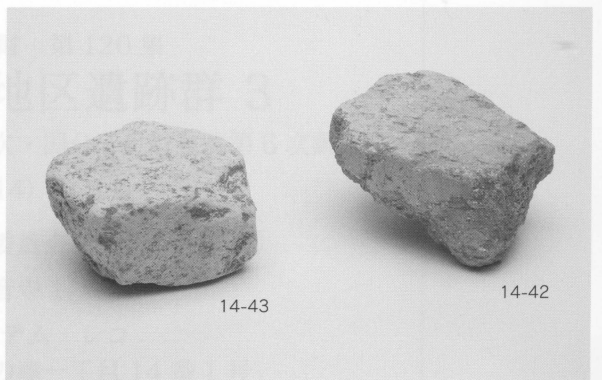
川添遺跡第2次 SX001 出土磚 (Fig. 14-40)



川添遺跡第2次 SX001 出土磚 (Fig. 14-39)



川添遺跡第2次 SX001 暗灰色土出土磚 (Fig. 14)



川添遺跡第2次 SX001 暗灰色土出土磚 (Fig. 14)

報告書抄録

ふりがな	だざいふ・こくぶちくいせきぐん									
書名	太宰府・国分地区遺跡群 3									
副書名	松倉遺跡第1次・川添遺跡第2次・国分千足町遺跡第6次調査									
シリーズ名	太宰府市の文化財									
シリーズ番号	120 集									
編著者	宮崎亮一 山村信榮									
編集機関	太宰府市教育委員会									
所在地	福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号									
発行年月日	2014 (平成26) 年3月31日									
ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鏡山推定案】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
まつくらいせき 松倉遺跡 第1次	条坊外	太宰府市 坂本2丁目	402214		57170.0	-45640.0	20091014	20091023	54	専用住宅建設
かわぞえいせき 川添遺跡 第2次	条坊外	太宰府市 国分3丁目	402214		57435.0	-45781.0	20100223	20100329	55	専用住宅建設
こくぶせんぞくちよういせき 国分千足町遺跡 第6次	条坊外	太宰府市 国分3丁目	402214		57204.0	-45846.0	20110510	20110606	106	専用住宅建設
所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構		主要遺物			特記事項		
松倉遺跡 第1次	集落	奈良	柵列、土坑		須恵器、土師器、都城系坏					
川添遺跡 第2次	集落	奈良、平安	柵列 段落ち		須恵器、土師器、灰釉陶器 瓦、埴、宋銭					
国分千足町遺跡 第6次	集落	弥生、奈良 平安	柵列、土坑、鋳造遺構		須恵器、土師器、鋳型、鋳滓 輪羽口、炉壁					

太宰府市の文化財 第120集
太宰府・国分地区遺跡群 3

— 松倉遺跡第1次・川添遺跡第2次・国分千足町遺跡第6次調査 —
平成26 (2014) 年3月

編集 太宰府市教育委員会
発行 太宰府市観世音寺1-1-1
印刷 有限会社 システム・レコ
福岡市東区多の津一丁目14番1号
FRCビル